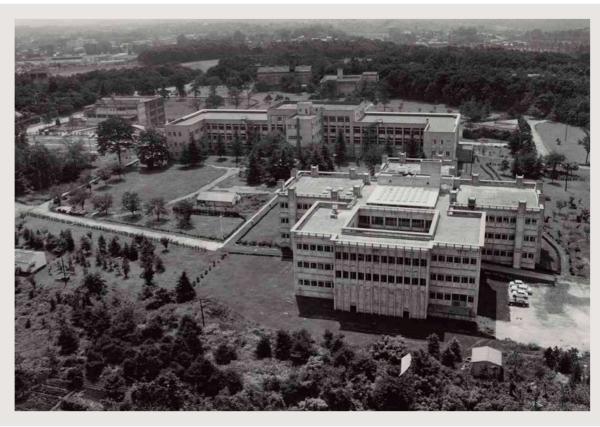
INTERNATIONAL CHRISTIAN UNIVERSITY ICU ALUMNI ASSOCIATION 3-10-2, Osawa Miroka-shi, Tokyo 181-8585 TEL&FAX: 0422 33 3320 http://www.lcualumni.com/Email: acaoffice@icualumni.com ALUMNI NEWS VOL.124 OCT.2015

特集 ICU 理系の実力

同窓会支部を楽しもう!:p.8 メジャー紹介 環境研究:p.14 ICU祭へのお誘い:p.22



提供:国際基督教大学歴史資料室





ICU生には、 課題発見能力を身につけてほしい

今回は、自らも卒業生であり、長年理学科の生物学教室で教育と研究に従事された風間晴子先生 (12) を中心に、 生物学分野で活躍されている卒業生にお集まりいただきお話をお聞きした。ざっくばらんなお話の中に、ICUならではのエピソードが満載。 3時間近くに及んだ座談をぎゅっと凝縮してご紹介する。

――まずは、現在のお仕事について、簡単 に教えてください。

西山: 私は、医療機関で遺伝カウンセラー として働いています。産科部門に所属していて、出生前診断の遺伝カウンセリングが 仕事です。出生前診断を受けるかどうかも 含めて、妊婦さんやご家族からお話を伺い ながら、理解を深めてもらうために必要な 情報を提供して、どういう方向にしたいか その意思決定を助ける仕事です。遺伝が関 係する病気についての相談もありますが、 特に注目されているのは高齢出産での出生 前診断ですね。欧米諸国では出生前診断を 受ける人は6~7割という国もあるのです が、日本では全体の5%ぐらいです。

風間:日本ではまだ新しいお仕事で、西山 さんは認定の32号なのよね。

西山:先生、すごい! 私も自分の番号覚えていないのに(笑)。

――学生時代から遺伝カウンセラーを目指 していたのですか?

西山:最初は遺伝性疾患の治療薬を開発するような研究者になりたいと思っていたのです。でも、学生時代に研究で時間を計測していたのに、風間先生とのおしゃべりが楽しくて、時計をみるのをすっかり忘れてしまったことがあって(笑)、自分は研究向きではないと気付きました。同時に、人とのコミュニケーションを通してより多くの人に携われる仕事はないかなと思ったとき、アメリカに遺伝カウンセラーという仕事があると聞き、日本でも養成が始まったところでしたので、そちらに進みました。風間:これから、日本でも重要になる仕事

ですよ。

――岡本さんは首都大学東京で教えていら

っしゃいますね。

岡本:研究テーマは、植物の生殖と発生です。ごく簡単に言うと、人工授精の植物版を使った研究をしています。めしべの中で卵細胞と精細胞が受精して受精卵になり、それが成長して胚となり、種子の一部になります。それを、発生過程を追って観察・解析し、どのような細胞内機構や遺伝子が働いているのかをダイレクトに調べるという研究です。最初はトウモロコシで確立された実験系ですが、日本で一年中トウモロコシを育てるのは困難なので、栽培が比較的容易なイネを使っています。

風間: 岡本くんの研究の独創性を自然科学にあまり親しんでいない方向けに説明すると、例えばヒトの場合、受精卵が持っているDNAと体細胞のDNAは同じなのにどうして形態や機能の異なる細胞や組織ができるのかという研究が注目され、モデル生物である線虫などで研究が進んできました。植物では1950年代から1個の体細胞が個体となる能力を持つこと(分化全能性)が知られていましたが、実際の卵細胞や受精卵を解析の対象として研究することは技術



風間 晴子

KAZAMA, Haruko(12) 教養学部自然科学科卒業生物学専修 同大学院教育学 研究科(理科教育)中退。

77年「Control of the growth of cucumber hypocotyl sections by gibberellin and auxin の研究で大阪市立大 学より論文博士号。当時ICUに博士課程がなかったためで、 ICUに於ける研究で博士号を取得した第1号でもある。ICU 理学科専任講師・準教授・教授、東京大学非常勤講師等を経 て、2011年ICU名誉教授。2012年より女子学院中学校・高 等学校の院長を務めている。40年以上にわたるICU在職時に は、学内での教育・研究活動のみならず、学外でも、学術振 興会専門委員、理化学研究所の将来計画委員会委員、国際高 等研究所課題研究担当委員、小泉政権時には郵政三事業民営 化懇談会委員などを歴任。2012年には長年にわたるリベラ ルアーツ教育による研究者育成の功績が認められ、日本植物 学会賞特別賞を受賞。ICUを退職した今も、研究室の学生に 限らず卒業生が先生の元に集まり、交流が繰り返されている。 卒業研究のタイトルは「The formation of gibberellin A₃fructoside in the leaf of Zea mays トウモロコシに於ける ジベレリンA₃フラクシドの生成」。

的に簡単ではありませんでした。だから、 岡本くんの研究、つまり受精の瞬間から受 精卵の発生過程を細胞レベルで観察・解析 するという研究は画期的なのですよ。

□本:もともと植物の種がどうやってできるのかに興味がありました。大学院でも種を研究している先生についたのですが、自分が研究テーマを選べる立場になったとき、種の発生にもいろなステージがあって、受精、胚発生、中期、後期、それぞれに面白いイベントが起きているのですが、どこをやろうかなと考えて一番最初を選びました。こうした研究をしながら、理工学系生命科学専攻で学部と大学院で教えています。

森田:マサチューセッツ大学アマースト校 で教員をしています。研究は、結核菌の増 殖や細胞壁生合成のメカニズムです。結核 菌を含む多くのバクテリアは、桿状つまり 細長い形状をしているのですが、分裂する ときはそれが伸びて分裂します。そのとき に細胞壁をつくるプロセスとその数が増え て行くプロセスがどのように連動し、どん なメカニズムで起きているのかを明らかに しようという研究です。対象としている細 菌はいろいろな病気を引き起こすものでも あるので、どのように増えるのかがわか れば、ゆくゆくは社会的なフィードバックと して薬剤の開発につながる可能性もあります。 こうした研究をしながら、同時に学部と大学 院生に対して授業を受け持っています。

風間:森田くんには、夏にICUでバイオケミストリーのラボ(生化学実習)を担当していただいていて、私がICUを退職した後も続けて下さっています。

知性を磨いて、力をつけてから 社会に還元することが大事

一皆さんの現在のご活躍の元になったのがICU時代かなと思うのですが、自然科学を学ぶことは入学時から決めていましたか? 風間:森田くんには、面白いエピソードがあるのよ。理学科の学生なのに、人文科学科(当時)の川島重成先生(西洋古典)のクラスを全部とったのよね。ある日の教授会で川島先生と席がお隣になって「森田くんは僕の卒論生になるのだと思っていたら、理学科で風間先生で卒論をやるんだってねえ」ととても残念そうにおっしゃられたことがありました。

森田: そうですね。人間というものに興味があったので。

一当時は入試時に希望する学科(=人文学科、社会科学科、語学科、教育学科、理学科、国際関係学科)を申請するシステムだったと思いますが、ヒューマニティ(人文科学科)かNS(理学科)か迷いましたか?

森田: それはなかったですね。人間とはどういうものかを学問的に理解したいと思っていました。生命という意味では生物学が一番それに近いかな、という考えでいました。本当だったら動物学とか人間に近いことをやりたかったのですが、風間先生に惹かれて卒業研究は植物学で行いました。

風間:もう一つICUらしい話があるの。彼 (森田氏) は2年生のとき、フィリピンの スタディツアーに参加して、それに影響を 受けて「(将来は) 現地で井戸掘りをした い」と言ったのね。実験室でその相談を受 けて、私は断固として反対しました。「確 かにそのようなお仕事も尊いし、生きがいもあるでしょうね。でも、それは自分の自己満足ではないかと問い直して欲しい。自分の知性を磨いて、その上で社会に還元できる力をあなたは持っているのだから」と言ったのよ。

森田: それは学生時代の一つの強烈な思い 出として覚えています。

風間:私も、中学生の頃は森田くんのような考えを持っていました。シュバイツアーが30歳まで研鑽を積んでからアフリカに行くと書いていたのを読んで「なぜ今目の前に助けを求めている人がいるのに、こんな悠長なことを言っているの!」と反発したのね。でも、大学に入って分かったの。自分自身を磨いて力をつけてから、その力を社会に還元することの方が大事だと。

一両本さん、西山さんのお二人は、最初から理系専攻に決めておられたのですか? **岡本**:私は、もともとは理系だったのですが、高2のときに数学が苦手になってしまって文系に転向。受験のときは、国立文系狙いでした。でも、子どもの頃から庭仕事を手伝うのが好きで、植物の研究もいいなと思い、ICUなら文系タイプの勉強をしていてもNSを受験できるので受けました。振り返ってみれば、ICUに入ってよかったな、と思っています。

西山:私は、ハイアガリ(ICU高校出身)なので、どちらかといえば消極的な選択でした。遺伝子工学とか人の健康に携わるような学びをしたかったのですが、ICUの理系にはその分野がないことも知っていました。ですから、内容よりはプロセス重視というか。どのような環境なら自分の力を養えるかということ考えました。また、楽しく過ごせることも、当時の私にとっては重要だったんです(笑)。

好きな研究をすると、 毎日感動しながら生きられる

――みなさんが風間研究室にたどり着いた のはどういうわけなのでしょう?

森田:面白そうな授業はいろいろあったのですが、ひときわ楽しそうだったんですよ、風間先生ご自身が。「ねえねえ、面白いでしょう?」って子どもみたいに目をキラキラさせておられて……。

西山: 先生とお話ししていると面白く、かつ「深いな~」と。なによりも先生のお姿から、毎日感動して生きられるんだと思ったのが大きいです。

風間:これは退職のときに言ったのですが、 「ICUは高度な分析機器もなければ、助手 もいない。そうした状況だったことがかえ って私にとっては恵みでした。なぜならす べてを自分の手を動かし、自分の目で見る ことになったから」とお話しました。自分 が見つけたことは自分でやらなくちゃ。私 は、いまも女子学院の学院長の仕事などで 忙しくしていますが、それでも、自分で見 つけた現象は最後まできちんと研究したい。 核内倍加(細胞分裂を伴わずに、DNAが 複製増加すること)した細胞は分裂しない と言われていたのに、分裂させることが出 来たのです。これは何人もの人が一緒に観 察しているのよ。このメカニズム(機構) を解明することが研究者としての義務だと 思っています。

森田:分子的なメカニズムがわかっていな

いところで、あれを見つけた、これを見つけたといっても分子レベルの研究が主流な現代生物学の風潮の中では、あまり評価されません。しかし、やっぱり最初によく見て現象を見つけて記載するというのは大切なこと。これはICUで風間先生から学んだことですね。いまも、それは意識して学生と共有しようと思っています。

岡本: 僕も、いまの研究のもともとの興味は「見る」ということ。細胞を観察したことから、この発生ステップでこの遺伝子が必要なのではないかと解析します。直に見ることが面白いから研究しているとも言えます。多くの場合理学系の研究は、研究室で行われていることのバトンタッチ、バトンタッチで引き継がれていくのですが、

ICUでは自由にやらせてもらいましたね。

風間:多くの大学では、研究室であらかじめ決められているプロジェクトを学生に行わせています。私がそれをしなかったのは、学生が国公立や海外の大学院に進んだあと、自分のプロジェクトや実験系を打ち立てることができるようになってほしかったからです。ICU生には何よりも自分で課題を発見して自分で解析することを大切にしてほしい。課題発見能力を身につけて出て行ってほしいの。例えば西山さんの卒論の研究だって、世界で最初の研究なのよ。

西山:最初は違うことをやろうとしていたのですが、偶然「これはなぜだろう」と思うことに突き当たってテーマを変えたんです。

<u> 風間</u>:西山さんの研究は「キュウリのペ



森田 康裕 MORITA, Yasuhiro (36 ID92) 教養学部理学科卒業生物学専修

ノースウェスタン大学(研究員)、ジョンズ ホプキンス大学 (Ph.D. Michael A. Shanoff 賞を受賞)、メルボルン大学(博士研究員) 大阪大学(助教) を経て、現在はマサチュー セッツ大学アマースト校で助教として、結核 菌の細胞壁伸長のメカニズムを研究している。 通っていた教会学校のキャンプでICUキャン パス内に宿泊し、バカ山でラジオ体操をした 思い出がある。教会にICU理学科卒の先輩が いて面白い大学なのかなと思って受験。2000 年より毎年夏季にICUの生化学実習を指導し ている。卒業研究のタイトルは「Quantitative analysis of red light-induced subsidiary cell formation in the hypocotyl epidermis of Cucumis sativus 赤色光により誘導され る副細胞形成の定量的分析」。



岡本 龍史 OKAMOTO, Takashi (36 ID92) 教養学部理学科卒業生物学専修

東京都立大大学院(修士、博士中退)、都立大助手着任後、学術振興会海外特別研究員(ドイツ/ハンブルグ大学)を経て、現在、首都大学東京理工学研究科教授。主にイネを用いて被子植物の受精および初期発生機構を研究。植物の受精卵から個体への発生過程に興味を持ち、植物の受精卵の人工授精の実験系をイネで確立した。在学中は剣道部に所属し、N館よりもRーgymに主に出没。卒業研究のタイトルは「Gibberellin-induced changes in cortical microtubule orientation and various parameters of cell size ジベレリンによる表層微小管配向と細胞のサイズに関する各種パラメーターの変化」。



西山 深雪 NISHIYAMA, Miyuki (50 ID06) 教養学部理学科卒業生物学専修

京都大学大学院医学研究科専門職学位課程 (社会健康医学系専攻く遺伝カウンセラーコ ース>) 修了後、遺伝子診断を行う会社に勤 め、働きながら京都大学大学院でPh.D.を取 得。現在は国立成育医療研究センター周産 期・母性診療センターで認定遺伝カウンセラ ーとして、出生前診断の遺伝カウンセリング を行っている。在学中はアメリカンフットボ ール部のマネージャーをしていた。卒業研究 のタイトルは [Effect of light on peg formation in Cucumis sativus L. seedlings-Is endoreduplication involved in lightregulated peg formation? - キュウリのペ グ形成に対する光の阻害効果ーエンドリデュ ープリケーションの関与の可能性の検討一」。 近著に「出生前診断」(ちくま新書)。



座談会参加者の卒業論文。風間先生宅に大切に保存されていた

グ」に関するもので、ペグっていうのは、 キュウリの芽がでたときに種の皮が被った ままだと双葉が展開しないのだけど、キュ ウリの芽の根元にちょっと出っ張った部分 があってそれで種の皮をひっかけて脱ぎ去 るようになっているの。その出っ張りをペ グというのね。そのペグがどういう環境だ とどのように形成されるかという研究。エ チレンや光、重力等の条件が関わっていて、 これは、後に宇宙実験の一つとしても使わ れたのよ。

研究が人の役に立つか、 立たないかを考えること自体 ズレている

――皆さん、知的な刺激に満ちた学生時代 を過ごされたのですね。

森田:さっきの風間先生との議論、僕の記 憶では4年生のときにしたと思うのです。 まあ、2年生のときも4年生のときもした のかも (笑)。というのも4年生の頃「大 学院にまで行って研究して人の役に立つの か」ということで悩んでいたのです。最終 的にはサイエンスも人に役に立ち得るとな んとなくわかって院に進むと決めたのです が……今振り返ると、「役に立つ、立たな い」と考えること自体がズレていたと思う んですよ。僕が勉強していたギリシャ悲劇

では、人のためによかれと思ってしたこと が、どんどん悲劇に通じていく。それを思 うと、科学者たちが声高に「この研究は人 類に役立ちます」などと言うとむしろ違和 感を覚えます。さっき、岡本が言ったよう に「面白いから研究している」方が自然と いうか。「こんなに役に立ちます」と言わ ないと大学の研究が成り立たないとしたら、 おかしいんじゃないかと感じます。

風間:2002年にノーベル賞(生理学・医 学賞) を受賞したジョン・エドワード・サ ルストン先生はポスドク (Post Doctorの 略で博士号を取得した博士研究員のこと) になられてから数年、論文も出されず、本 当にコツコツと線虫の細胞系譜の研究をさ れたのね。その後、ヒトゲノムの研究も展 開。大きな仕事ってすぐには論文にならな い。そういう面もあるもの。

森田:本当にイノベーティヴな仕事って、 同時代の人には理解されないレベルのはず です。例えばメンデルが神父のくせして (笑)、エンドウマメがツルツルかシワシワ かを調べたけれど、同時代の生物学者には、 その理論はまったく理解されませんでした。 でも、約40年後にその研究が再発見され、 100年以上経った1990年代にその遺伝子 の違いがわかった。そういうふうに純粋に 興味のあるところから、次の時代の本当の イノベーションが生まれるとすると、「役 に立つかどうか」という近視眼的な物の見



風間:多くの大学では、どういう論文が書 けるかを先に考えて、この論文のここのデ ータを出す実験をしなさいというふうに学 生に研究させます。すでに仮説はあって、 従って問いは設定されていて「実際に実験 をする」部分を学生にやらせるというシス テムが横行しているわね、残念ながら。で もそれでは、自分で課題を発見することが できなくなってしまう。

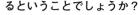
ブラワバキ? 被なもにずるまた 銀指第四部合的大雅: 7537. ELEIT YEA DE リ却ないしても、これではデザイン 正いる、マノラいます、もうのと見つれて いっと、京田南アを教学ノルニタルチョル 又. 馬力英幅11.23 陰影は これでみかと まない 毛のある

ようにかえて1まいます。 きなから 気で落めいていらくますい

岡本:そうなんですよ。だから試行錯誤し てテーマを決めるということができない。 すると研究者として自立できないわけです。 ICUでは、風間先生や勝見(允行)先生が そうだけれど、最初に「これとこれを使え るから」と機械の使い方を教えて、それ以 降はある程度放っておいてくださった。だ から、自分の興味のままに機械を動かして 「先生、こんなことができました」という 感じ。自分でやるのが自然でしたね。

疑問を追求するプロセスを 存分に体験できた

−一般的な大学では、純粋な自分の興味 から研究に取り組みたい人は大学院生とし て受け入れられないような流れになってい



るということでしょうか? 岡本:それに答えるのは、難しいですね。 僕自身、純粋に自分のやりたいこともある けれど、結果的には研究費を獲得するため のテーマ、研究もやっていて、そちらに流 されそうになっているのではないかという 葛藤もあります。そんなときはよく、風間 先生を思い出します。先生はいつも純粋に サイエンスをなさっていて、そこは絶対に ぶれない。それが心の支えになっていますね。 風間:私が言いたいことを言ってきたのは、 自分をごまかしていたら死ぬときに困るか ら。それを、女性だから許されるとか、家 計を支えていないから言えるんだというよ うな言われようをしたのは甚だ心外です。 学外でもいろいろな審議会、例えば小泉政 権のとき郵政三事業民営化の懇談会の委員 をしたり、理化学研究所の将来計画委員会 にも参加してきましたが、言わなければな らないことは言ってきました。実験も、自 分の信じるところに従ってやってきました。 西山:アメリカの大学ではどうなんですか。 森田:一緒ですよ。研究の助成金をもらう ときは、どんなふうに世の中に役立つかを 申請書に書かなければならず、辟易します。 学生自身もそのことをとても意識している。 だから僕が「役立つかどうかはわからない でしょう」と言うと、キョトンとしてしま う。でも、そういうことを言い続けなけれ ばいけないんだな、というのがICUで学ん だことの一つです。学生の僕が「人に役立 つことをしたい」と言ったとき、風間先生 が「それは甘い」とおっしゃったように、 僕も僕の学生には応答していきたい。西山 さんはどうなの? 遺伝カウンセラーって 人の役に立つための仕事でしょう。そうい う世界に飛び込んで、ICUの教育について 感じることってある?

西山:会話を通して、「こういう人もいれ ば、違う人もいるのはなぜだろう」と疑問 を持ち、それがリサーチクエスチョンにな り、この分野の論文になったりします。遺 伝カウンセリングは確かに人の役に立つ仕 事ではあるけれど、それを通して自分の追 求するテーマを見つけることもできます。 これはICUで「答えのあるものを調べた」 のではなく、風間先生の下で存分に追求す るプロセスを体験できたからなのかなと思

風間:私は、いまのカリキュラムからはな くなってしまったけれど、理学科の全分野 の4年生の必修科目であった自然科学総合









1年次の夏休みに実施された「野外実習 (Field Study) 」での植物のスケッチ。風間先生の丁寧なコメントが入っている。

演習は重要だったと思います。例えば先 ほど出た、「研究費を得るための研究」と 「純粋に興味のある研究」とのせめぎ合い を科学者としてどう取り上げ向かい合って いくかということも、皆でディスカッショ ンしたことがありました。他学科の先生も いらしてディスカッションに参加してくだ さったのよ。あれはICUの象徴的なクラス だったわね。

リベラルアーツとは 自分をより自由にしていく学術

──ICUで自然科学を学ぶとこんなに面白 いということを挙げるとするとなんでしょ うか?

森田:自分で実験して何かを発見してデー タをとって、ということができる。自分の 行ったことが、定量的に何かものが言える データとして出てくること、純粋に生命の ある側面を見ているという面白さ、ですか ねえ。いや、これは他の大学にもあてはま る自然科学を学ぶことの面白さかもしれま

<u>風間</u>:ICUではもちろんジェネラルエデュ ケーション(GE)で自然科学の科目も必 修になっています。私にとって研究と学問 は違うものです。学問とは、まさに"問う ことを学ぶ"こと。研究が成り立っても、 学問が成り立つのはとても大変なことなん ですよ。ですから私はGEを50歳になるま では担当できないと思っていました。その 先生が学問における研鑽を積んだ上で、そ の先生の学問性が顕れるような形でプレ ゼンテーションされるのがGE。ですから、 今、大学から文学部をなくそうとか、一般 教養から文学をなくして経済学など実学だ けでいいじゃないかといった発想が出てく ること自体、危ないなと思うのです。ICU のリベラルアーツが注目を浴びているけれ ども、なんでも広く浅く自由に学べるとい うことでは全くなくて、自分をより自由に していく学術なのですよ。ですから、リベ ラルアーツでも専門分野、自分のコアを持 つことで、よりとらわれのない自分になる ことができます。これが、ICUという環境 の中で生きることで学んできたことですね。 岡本:ICUを卒業して大学院に進むと、大 きな国立大学出身の人に多く出会います。 彼らみたいなメインストリームを行く歩き 方をしなくても、オレはやっていけるんだ という裏付けのない自信を、風間先生、勝 見先生をはじめ、剣道部の山本先生・先輩 方のおかげで、ICUの4年間に持てるよう になりました。アウトサイダーでも、マイ ノリティでもやっていける。

森田:むしろその方が生きやすい (笑)。 西山:今、医療機関で多くの医師たちと働 いていて感じるのは、彼らは高校生のとき に進路を決めたのですが、私はそうでは なかったということ。私にとってのICUは、 自分がどうありたいか、どんなになってい きたいかを考える時間を与えてくれた大学 でした。もしも高校生のときに本当に遺伝 子工学をやりたければそういう大学に行っ たでしょう。でも、ICUには他の大学には ない、人の幅を広げ、可能性を見出してく れる環境があったと思います。

風間:ICUで学ぶ皆さんにお伝えしたいこ ととしては、かつてICUでも激しい大学紛 争があったということ。実は、私は当時 27歳で理学科の助手だったのですが、機 動隊が入るという前日、学生がロックアウ ト(立てこもり)をしているところに一人 で行って、バリケードを解くように(大学 当局から)頼まれました。学生たちのロッ クアウトというやり方には賛成できません でしたが、彼らの「学問とは何か」という 問い掛けは大学当局への重要なチャレンジ であったと思います。彼らを説得して解放 させたことで、その問いを潰してしまった 責任が私にはあるのではないか。そうだと したら、私はICUに残り、教育と研究を通 して「学問とは何か」「大学とは何か」に 応える姿勢を持ち続けなければいけない と思いました。このことを問い続けるこ と。そして創立以来掲げてきたICUの理念 を、ぜひICUで学んだ方たちに継承してい ただきたいと思っています。

理系同窓生の交流 さまざま

座談会の間にも、風間先生を中心に新 旧の同窓生が頻繁に集まっているという お話がでましたが、さまざまな形で理系 同窓生の交流は盛んなようです。以下の グループにもご注目ください。

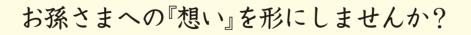
国際基督教大学理学倶楽部

(同窓会支部)

学科制度からメジャー制への変更を控え た2007年、現役学生および理系卒業生、 理学系研究室の現・旧教職員のつながり を今一度盛り上げ、Science @ICUを サポートする目的で立ち上げられた同窓 会支部。"NS-Homecoming"等のイベ ントも過去数回開催。

Facebook「ICU理系の集い」

比較的若い年代が集うFB上の集まり。 企業や研究機関でのインターンの情報、 数学サマーセミナーのお誘い、卒論アン ケートへの協力願い、はたまた「教科書 譲ってください!」などさまざまなやり とりが行われている。



教育資金贈与信託〈愛称:孫への想い〉

「教育資金贈与信託」は、

30歳未満のお孫さま等への教育資金として 当社へお預け入れいただき、 当社はお孫さま等からの払出請求に基づき、

教育資金をお支払いする商品です。

●5,000円からお申し込みいただけます。

●贈与を受ける方は、30歳未満のお子さま、 お孫さまのほか、ひ孫さまも対象になります。 教育資金としてしっかり管理

払い出し前に、三井住友信託銀行 が教育資金のお支払いで が教育貧金のお支払いであることを確認します。

贈与される方の『想い』に応えます。

【対象例】

----学校等 学習塾・ 水泳・ ピアノ 絵画 等 野球 そろばん

無料! 管 理 料 払出手数料

お問い合わせ・資料のご請求は

0120-988-494 受付時間 平日9:00~17:00(土・日・祝日および 12/31~1/3はご利用いただけません)

孫への想い

検索

贈与額1,500万円まで非課税

その人を信じて、その人に託す。 Moof The Trust Bank



ICU"理系ジェネード"の実力

自然科学専攻ではない人にとって、ICUで学ぶ理系科目にはどんな意味があるのだろうか。 NHKで長年科学番組制作を手がけられた同窓生と、現役学生とに聞いた。

人間に必要な思考の営みとして自然科学を学んだ

「科学」というツールを使ってものごとの真相に迫る 取材・文: 栗山のぞみ(本誌)

他の枠組みから見たら どう見えるか

「東日本大震災」「ダイオウイカ」などのNHKスペシャル、「再生医療」「認知症」といった医療番組、「ダーウィンが来た!」「ためしてガッテン」「クローズアップ現代」などの制作にあたる科学・環境番組部で部長を務めていました。ディレクター時代から「科学」というツールを使って、ものごとの裏側にある真相に迫る、「科学」という手法で世の中の不思議や、自然の驚異を伝えることに長年携わってきました。

こうした仕事をするにあたって、ICUでの学びが役立ったと思うのは、まず「ラディカルに考える」ということ。あることを伝えるのに「なぜ、そう言えるのか」「その根拠はなにか」を考える姿勢を持つこと。FEP(フレッシュマン・イングリッシュ・プログラム)から卒論執筆までずっとそのことを問われ続けました。

自然科学系の科目では、村上陽一郎先生の「科学史」「科学哲学」、原島鮮(あきら)先生の「物理」の授業、「数学基礎論」などを取りました。村上陽一郎先生の講義は毎回スリリング。例えば「思考の枠組みが変わること、パラダイムシフトはどんなふうに起こるのか」など、我々のものの見方がいかに時代の枠組みの中に閉じ込められているか、それを意識する必要があるということを学びました。後にジャーナリズムの世界に入って、現時点での見方だけに捉われないこと、例えば他の文化の枠組み、ある

いは未来の自分たちから見たらどうなのかを合 わせて考えるのに役立っていると思います。

物理の講義では、「20世紀に生きているのだから、相対性理論や量子論も知らなくては」と、 先生が、人間に必要な思考の営みとして自然科学を教えてくださったのが今も心に響いています。

仮説を立てプロセスをたどる力

科学番組を作るには仮説を立てることが大切 です。例えば地球温暖化についてIPCC(気候 変動に関する政府間パネル)のデータはありま すが、番組にするにはその現場、つまりその現 象を顕す"象徴的な場所"を見つけて撮影しな ければなりません。データから仮説を立てなが らいろいろ調べてみると、例えばノルウェーで 海底沖田の掘削ラッシュが始まっていることが わかった。さらにリサーチすると、どうやら氷 が薄くなってきたから掘削しても採算が取れる ようになってきた、ということがわかってくる ……すると、一つの「現場」として撮影できる のです。このように企画を立てる人は、ある課 題を見つけ、「もしかしてこういうことが起こ っているのかも」という仮説を立て、それを裏 付ける新しい事実を探し出すことが必要です。 それができないと、流通している情報の再生産 しかできません。

科学者に取材するにしても、知識や知見はその先生の本や論文で読むことができますから、 大切なのは、その研究者がなぜその知見を得る に至ったのかというプロセスをたどること。そ れが、深くものごとを理解することに通じるのです。根本のところからどのようにそこに至ったのか。そういうたどり方をすることが新たな仮説を立てることに繋がります。こうした思考法ができるようになったのには、ICUでの授業や議論が役立っていると思いますね。

境界で揉まれ、境界を越える

今、超常現象とか不思議なものごとに惹かれる人が多いように思います。でも、わからないことを全部ブラックボックスとかミステリーとしてしまうことには違和感があります。というのも、魔法や超常現象を持ち出さなくても、世界は十分に不思議だからです。僕らが生きて身体が動いていること、言葉を使って意思疎通ができること……世界は不思議に満ちていて、だからこそサイエンスで解明したいと思うのです。それを、「サイエンスは科学者に任せておけばよい」「自分とは関係ない特別なもの」として受け止めるようなことは残念ですね。ICUのジェネードはそのような世界の不思議と豊かさに眼を見開かせてくれる絶好の機会だと思います。

数年前に「宇宙の渚」という番組シリーズを企画したのですが、このときのコンセプトは、地球と宇宙とは隔てられて存在しているのではなく、その間にはいろいろなものが地球のシステムに打ち寄せられてくる「渚」があるということ。タイトルもそう名づけました。考えてみるとICUという大学は、意図的に「渚」あるいは「境界」を作り出し、そこで積極的に交わる



松本 俊博

MATSUMOTO, Toshihiro (28 ID84) 教養学部人文科学科卒フランス文学専修

在学中はステファン・マラルメの"火曜会"を目指して荒木亨教授(フランス文学)が学内の自宅で主宰されていた"土曜会"でさまざまな専攻の大学院生の先輩たちに揉まれながら議論を交わす。NHKでは長らく科学番組を手がけ、4年前まで科学・環境番組部長。現在は総合テレビの編集長、編成局編成主幹。10年ほど前から5年間ほど、東京大学大学院で「科学ジャーナリズム」の非常勤講師も務めた。

ということを提供する大学ではないかと思います。知らないから、専門外だからと避けて通るのではなく、ものごとがぶつかり合い、せめぎ合い、混じり合う「境界」で揉まれてはじめて、境界を越えることができる。僕は文学専攻でしたが、理系科目も含めICUで学んだのは、このようなことだったように思います。

現役学生が語る"理系ジェネード"

理系・文系メジャーが異なっても一緒に授業を受ける場がある

取材・文:加藤菜穂(本誌)

数学は難しかった。 でも、先生の人柄が魅力!

上杉遥子さん(ID17)は、美術・文化財研究メジャー。昨年2年生の春学期に、久保謙哉先生・小林潤司先生の『自然の化学的基礎』を履修しました。その名の通り、人間が日々を営む自然・人工的な環境の中にある身の回りの化学について、実験のデモンストレーションなどを交えて考察する授業です。「理解し易かったです。課題は主にレポートで、テーマ選びに自由があったのが嬉しかった。麻薬の特性について知る機会があり、新鮮な発見でした」と語ります

また、同じ年の冬学期に、鈴木寛先生の『数学の方法』を履修。「恐らく基礎的な内容なのだと思いますが、数学が苦手なので、難しかったです。普段は成績にこだわるのですが、自身の能力に限界を感じ、諦めてしまうほど。でも、教授の人柄が一番の魅力で、授業そのものは楽しいと感じることができたんです」。 勉強熱心な上杉さんは、一般教養以外でも天文学などを履修しています。「今は、相対性理論について知りたいので、物理学も取ってみたいと思っ

ています」と、意欲を見せています。

得意なところを生かし合って プログラムを完成

同じく、農坂夢香さん(ID17) は教育メジ ャー。演劇を中心とした自己表現を教育現場 に取り入れることに関心を持っています。昨 年2年生の秋学期に履修したのは、高岡詠子先 生の『コンピュータと人間』です。インターネ ット上のセキュリティ、SNSにおけるモラル など、コンピュータを使用して社会と繋がりを 持つ際の基本的なルールを学びます。「自己表 現について、ためになりました。現代人の表現 の場所はインターネット上に集まっているのが 現実。自分も人も傷つけないスムーズなコミュ ニケーションとは……みんな解っているはずな のに、Twitterなどを見ていると、誰も気にし ていないように思えます。『はいはい、分かっ てるよ』ってやり過ごしてしまいそうな内容を 改めて中心に持ってきていて、かえってドキッ とさせられました」。次の学期にも、続けて情 報の授業を履修。清水將吾先生の『コンピュー タ・リテラシー』です。教職課程の選択科目で した。「初回に先生が『この授業ではプログラ

左・上杉遥子 UESUGI,Yoko (ID17) / 右・農坂夢香 NOSAKA.Yumeka (ID17)

ミングをします』と説明すると、学生たちは 『なぜ教員を目指している立場でプログラミン グをしなければならないの?』と、ちょっと不 満そうだったことを思い出します。一からプロ グラムを作るというのが、専門性が高く聞こえ、 負担にかんじたのでしょう」。授業では、コン ピュータについて学び、実際に、グループもし くは個人でプログラムを1つ作成しました。「わ たしは3人のチームでした。やっぱり、そこで 活躍するのは理系の人です。1人、情報系に強 い人がいて、とても助けられました。わたしを 含めた残り2人は、どんな面白い内容にするか、 アイディアを出す方に力を入れました。プログ ラム上の懸念点を理系の人がカバーしながら完 成に向かいました。文系・理系の学生が混ざっ ている授業ならではの、お互いの知見を生かし たチームワークです。最初は苦手意識がありま したが、最後には、将来、教職に就いた際に自





分で作ったプログラムを教材として使ってみたいって思えました」。

ICUで一般教育科目として理系科目が必修で あることについて、尋ねてみました。「教養を 身につける上で……少なくともその努力をす るために、重要だと思います」と、上杉さん。 「視野を広げるために大事だと思います。注目 すべきなのは『文系の学生が理系の授業を取 る』ことではなく『理系の学生と文系の学生が 一緒に授業を受ける場があること』だと考えて います」と、農坂さん。お二人に共通して言え ることは、初めに苦手意識を持っていた内容で あっても、授業内容のたった一部分にでも興味 が湧けば、そこから新たな関心への広がりが見 えてきたり、教授やクラスメイトなど人との交 流を通じていつの間にか楽しみを覚えたり、変 化があったことです。必修としての理系科目は、 その重要な入り口になっているようです。



イベントレポート

THE ROLE OF SCIENCE EDUCATION IN LIBERAL ARTS ~リベラルアーツにおける科学教育の役割~

取材・文:長橋典子、小林智世、栗山のぞみ(本誌)

5月23日、リベラルアーツにおける科学 教育について考えるシンポジウム「THE ROLE OF SCIENCE EDUCATION IN LIBERAL ARTS」(SGU推進室主催)が、 東ヶ崎潔記念ダイアログハウスで開催され た。ちょうどAlumni Newsの特集テーマ とも合致するため興味を惹かれ、スタッフ 数人で参加した。

冒頭では、学長の日比谷潤子先生と学務 副学長の森本あんり先生が、ICUのリベラ ルアーツ教育を俯瞰的に紹介。続いて、米 オハイオ州ウースター大学総括副学長のキ ャロリン・ニュートン氏、東京理科大学教 授で元ICUオスマー記念教授の北原和夫先 牛、そしてICU教授で大学院理学科専攻主 任の岡野健先生が講演を行った。ニュート ン氏は、米国ではリベラルアーツ大学の卒 業生が理系の大卒者全体に占める割合は8 %だが、彼らが博士号取得者に占める割合 は17%であり、リベラルアーツ大学の卒 業生の博士号取得率は、それ以外の大学の 卒業生の約2倍であると説明。リベラルア ーツ教育で培われた広い視野と批判的な思 考訓練が研究に生かされ、博士号の取得を 後押ししているという見解は興味深かった。 北原先生は、日本の教育は自然界の法則の 理解を目的とする "Science" に偏りがちな ので、知識の活用を考察する "Engineering"

も教え、最終的にどんな社会を実現したい のか考える機会も作るべきだと述べた。岡 野先生は、自身の物理学の授業では実験を 積極的に取り入れ、知識を実社会に応用す る難しさを学生に実感させる工夫をしてい ると語った。講演の中に、学部生が学会で 研究を発表し、他大学の研究者らから高評 価を得たエピソードの紹介もあり、先生方 が学生の独創性を尊重しながら研究を細か くサポートしていることが垣間見えた。

パネルディスカッションでは、ニュース などで科学的根拠のない憶測が流れている 昨今の状況を受け、専門家でなくても科学 的素養のある人材が必要だという意見が上 がった。科学教育がリベラルアーツという 文脈の中で行われるメリットを実感した。

終了後にお話しをお聞きした数学メジャ - の鈴木寛先生によれば、自然科学の中に は、数学のように緻密な論理や計算力を磨 くために、学修プロセスに反復型のトレー ニングも求められる学問もある。しかし、 様々な分野に必要な量的分析の基礎や論理 訓練も得られるので、リベラルアーツ大学 で学ぶすべての人に数学を是非学んで欲し いとのことであった。目指す学びを追求す るには、履修の自由さに流されず慎重に計 画を立てることも重要だと感じた。

2015年度に開講されている 主な"理系ジェネード"

●牛命科学

担当教員が各自の研究を通じて、生物学・生 物学研究がどのような考えの下で行われてい るのか解説。科学的な考え方を理解し、環境 保全・肥満と遺伝子など、「社会と繋がりの ある科学」「生活の中の科学」を取り上げる。

●自然の化学的基礎

物質の色・匂い・味、空気・水・放射能など、 身の回りの世界を化学的に理解し、現代化学 および科学技術の発展と問題点を認識する。 一市民として、知的な判断力と適切な影響力 を持ち、かつ行使できるように。

●情報科学概論

コンピューターについて、ハードウェア、ソ フトウェア、マルチメディア、ネットワーク、 などの基礎的なことを学びつつ、社会生活に おいての利便性や危険性、自分の学びへの活 用法などを考える。

●物理の世界 (B) —物理が教えてくれるもの

「ローラースケート、ボール、ランプ、風船、 ロケット、ストーブなど、身近な物がどのよ うな仕組みで動いているのか」など、古典的 なアプローチとは違う角度から物理の基礎・ 概念を説明。

●コンピュータと人間

「コンピュータを用いて通信する際の責任感 や感性を磨く」「著作権・肖像権」「バグとは 何かしなど、コンピュータを用いた生活をす る上で、人間としてのあり方や生き方、即ち 情報倫理・情報モラルを学ぶ。

●実験付き科学入門

自然科学の3分野(物理・化学・生物)に関 係する実験の体験を基に、講義(説明・発 表・討論)。ペットボトルロケットを遠くに 飛ばす、フィルムケースに発砲入浴剤を入れ て蓋を飛ばすなど、身の回りにある自然現象 を、物理学的にとらえて解析し、学問とどの ように結びつくかを理解する。

●ネットワーク情報活用

インターネット上のデジタル化された情報の 構造や性質を理解し議論。最新の用語やサー ビスなどホットなトピックスについても触れ、 演習を通じ、ソフトウェアの操作実践、プレ ゼンテーション技術についても学習。

●物理の世界(A)—科学的な考え方

科学は自分の手で実験して自分が考えたこ とが正しかったかどうかを確かめることが できるという特徴を持つ。人間は思い込み やすいもの……講義を通して本当のことは 何なのかを知るために必要な姿勢について 考え、容易にだまされない心を育てる。

●数学の方法

微積分・線形代数を中心に基礎から学ぶ。 社会科学を学んでいくための数学の基礎を ゆっくり学んでいきたい人、自然科学を専 門とはしないが科学を記述する言語とも言 うべき数学を学んでみたい人、高校までで 学んだ数学をもう一度見直してみたい人な ど、しばらく忘れていた数学の楽しさ、興 奮、苦しさ(?)をもう一度体験してみた い人を歓迎。

この他にも、『科学哲学』『自然科学総合 演習』『理解のためのマルチメディア』『科 学史』『コンピュータ・リテラシー』など が開講されている。

(2015年度シラバスを参考に作成)

映像で学べるICUの講義

~自然科学系のクラスも充実のラインナップ~



ここまで読んで「ああ、学生時代にもっと 理系の授業をとっておくんだった!」と後悔 している方に朗報です! ICU Open Course Ware(http://ocw.icu.ac.jp/) では、ICU で行なわれている講義やオープンキャンパス のレクチャーなどの動画を公開。その中から、 理系科目のリンクをピックアップしました。 学生時代に戻ったつもりで、自然科学の"教 養"を磨いてみませんか?

ICU Open Course Wareの サイトをチェック!

http://ocw.icu.ac.jp/major/bio/ 化学

http://ocw.icu.ac.jp/major/chm/ 環境

http://ocw.icu.ac.jp/major/env/ 数学

http://ocw.icu.ac.jp/major/mth/

http://ocw.icu.ac.jp/major/phy/

腰痛・肩こり・頭痛を改善したいあなたへ

ICU卒業生の佃隆とパートナーの佃美香が運営するファミリーカイロプラクティックでは、ただ単に痛みをとることだけでなく、予防医学の考え方を基に、総合 的・継続的なケアを行います。出来る限り、薬や手術に頼らず、手技により脊椎の調整を行い、姿勢美人になっていただき、神経系の働きを活性化させ、「**100% の自然治癒力**」を手に入れるためのお手伝いをいたします。カイロプラクティックケアで期待される効果、期間、頻度、料金を明示し、より良いケア計画を立て るための時間をとり、私たちスタッフと貴方の2人3脚で、質の高いカイロプラクティックケアを進めて参ります。 ICUへの感謝の気持ちを込めて、ICU関係者(ご家族を含む)のご来院初回料金から1,000円をICU同窓会に寄付させていただいております。

ファミリーカイロプラクティック三鷹院

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-17-19 パレスマンション101



「ICUアラムナイニュースを見て・・・」とお電話ください



http://mitaka-chiro.com



www.facebook.com/family.chiropractic.mitaka



ファミリーカイロプラクティック品川院

〒141-0001 東京都品川区北品川5-9-37 トミーハイツ1D



03-3280-0237 「ICUアラムナイニュースを見て・・・」とお電話ください。



http://shinagawa-chiro.com www.facebook.com/family.chiropractic.shinagawa



院長 佃美香

同窓会支部を楽しもう!

三鷹のキャンパスには「ちょっとご無沙汰」という人にも、そうでない人にも、ICU同窓会には日本と世界各地に、さまざまな活動を行っている支部がある。 一人でいくつの支部を掛け持ちするのも大歓迎。同窓会ライフをより楽しむために、支部の扉をあけてみては?

取材・文 堀内佳菜、池田伸壹 ICU同窓会組織部担当副会長(本誌)

支部って、どんなところ?~丸の内Style支部に聞く

「支部を楽しもう! と言われても、そもそも支部活動に触れたことがない記者(堀内)には、どのようなものなのか、いまいち想像がつかない。 そう、まだ海のものとも山のものとも分からないような気分。ここは、実際に支部を運営している人に話を聞いてみようということで、 東京で活動を展開する『丸の内Style』支部にお話をうかがった。

支部ってカタい組織 じゃなかったの!?

サークル活動のようなワイワイ楽しむ集 まりが支部化できるとは、夢にも思ってい なかった。支部とは何かを聞いた筆者(堀 内)の最初の驚きである。なんとなく支部 とは、様々な規則があり、会議室で机を囲 んで行うような"カタい"集まりのことを 指すものだと思っていた。しかし、支部活 動についていろいろ知っている先輩方に話 を聞くと、どうやら"カタい"集まりでは なく、もっと気軽なもののようだ。百聞は 一見にしかず!ということで、支部とはど のようなものか実感するために、全ての ICU同窓生にオープンな活動を月一で行っ ている、丸の内Style支部に話をうかがった。



以前、セクションメイトに丸の内Style のイベントに誘われたことがあったので、 その存在は知っていた。その時は、丸の内 で働いている訳でもないので、「自分には 関係ないわ」、「丸の内在勤のICU生ではな いので参加しにくいなあ」と思っていた。 しかし、これはとんでもない勘違いだった というのを設立者の山脇さんと話していく 中で気づいた。

まず、丸の内Styleってなに?とその名



イベント「働きながら、本を書く」の様子

をはじめて聞く読者も多いかと思うので、 ザッと丸の内Styleについてご紹介してお きたい。はじめに、『丸の内Style』とは支 部の名称である。支部と聞くと、「〇〇部 支部」や「ボストン支部」といったような サークル、部活動の名称や地名の付く支部 をご想像になる方も多いだろう。筆者もそ の一人だったが、実はどんな名称でもつけ ていいそうだ。山脇さん曰く、「支部とい うと、どうしても硬い感じがする。はじめ は私も、東京支部といったように地名をつ けるものかと思っていたけれど、自由と聞 き、おちゃめで今風な感じにしたかったの で丸の内Styleにした」という。

素朴な疑問として、"丸の内在勤"など 何か丸の内とつながりがないと参加できな いのかと山脇さんに聞くと、「全然!! ICU



ときに夜畳を楽しみながら・・・ !?

同窓生であれば誰でも参加できますよ!」 という答えが返ってきた。「同じような質 問はよくいただくんです。やっぱり"丸の 内"とあると気にされるようで、ネーミン グが課題でもあるのですが、私は東京の都 心の真ん中でICU生が気軽に会えて交流で きるような場所を作りたかったんです。そ れが、たまたま丸の内だったというだけ で、どなたでも参加していただけるし、活 動場所も丸の内に限ったわけではないんで すよ。」という。過去の参加者をうかがえ ば、ICUらしく海外から一時帰国された方、 タイミングよく東京出張中に参加された方、 地方や近隣の県からの参加者もいて、様々

活動内容としては、丸の内Styleの活動 の柱としている「Career (キャリア)」

「Care (癒し)」「Culture (文化)」という 3つのコンセプトをもとにイベントを企画 し、ICU同窓生を主な対象に月一回開催し ているそうだ。

支部にしようと思ったきっかけ

もともとは、支部化することを目的に動 き出した訳ではなかったようだ。卒業後も ICU生が気軽に交流できる場をつくりたい という思いから、初めはいわゆる交流会や 飲み会といったような感じで、単発イベン トとして行っていたそうだ。丸ビルのバー でイベントを開催した時に50人くらいの 人が集まったそうで、「東京の中心で気軽 に(ICU生同士で)集まれる場があるとい いよね~」という声を聞き、山脇さんは、 これなら支部化をしてもいいのではないか と思ったそうだ。また、前組織部担当副会 長の木越さんとの会話の中で、諸先輩方も 様々な支部活動をされているが、クラブや 地域などの所属の壁を越えて、卒業後も ICU生として気軽に交流できる場をつくり たいという思いで意気投合し、支部の申請 へと踏み切ったそうだ。

筆者個人的には、支部にするというと大 変そうなイメージを持っていたが、思った ほど煩雑ではないようだ(10ページ参照)。 「ある程度認知度のある部活動などの組織 ではなく、"ゆるい集まり"であるからこ そ、支部化すれば同窓会で認められた正式 な集まりのような感じもするし、ベネフィ ットがあると思った。そのままだったら、 『丸の内Style?それ怪しい団体?!』とな りそうでしょう」と笑いながら山脇さんは 言っていた。

現に、支部化したことで、ICU同窓会ホ ームページの支部一覧に掲載されるため、 そこから問い合わせて参加をしてくれる方 もいるそうだ。

活動の軌跡

実は丸の内Styleが支部となったのは 昨秋。本格的な活動開始の幕開けとして

丸の内Style支部概要

● 設立者:山脇真波

●支部化した年:2014年

●丸の内Styleコンセプト: 活動の3つの柱

「Career (キャリア)」 「Care (癒し)」

「Culture (文化)」

(東京近辺で働く) ICU卒業生が、会社、 職業、年代を超え、丸の内界隈で気軽に つながる機会を企画する。3つの柱をテ ーマに基本的に月1回でイベントを実施 し、他のICU同窓生とのコミュニケーシ ョンを通してライフスタイルの充実を目

●メンバー数:おおよそ430人

Facebookグループページ「ICU同窓会 丸の内Style」登録者数:427人(2015 年7月現在)。その他メーリングリスト のみのメンバーも含めると430人以上。

丸の内Style支部これまでの活動

年	月	イベント
2012	8	第一回丸の内スタイル@新丸ビルディング
	12	第二回丸の内スタイル@日比谷
2013	7	第三回丸の内スタイル@有楽町 「インドネシアバージョン」
2014	4	第四回丸の内スタイル@銀座 「キャリアウーマンに聞いてみる」
	9	支部として承認される
2015	10	ICU 祭にて丸の内 Style キックオフミーティング
	2	Launch Party@ 日本橋 1 — 1 — 1
	3	10 限目@丸の内教養講座概論 I 近代絵画を観に行こう (ワシントン・ナショナルギャラリー展@三菱一号館美術館)
	4	営業マンが考える、人から YES をもらう秘訣
	5	Opera in the afternoon
	6	働きながら、本を書く
	7	都会で楽しむ BBQ

丸の内Style支部連絡先 marunouchistyle-chapter@icualumni.com



Launch Party@日本橋1-1-1での集合写直

Launch Partyを開催したのも今年の2月 で、まだ支部としてフレッシュな存在なの だ。しかし、活動自体は2012年より行っ ており、イベント開催を重ねる中でコンセ プトや方向性などを考えてきたそうだ(囲 み参照)。

「会を重ねるうちに、ただワイワイ集ま るだけの飲み会ではなく、参加者のライフ スタイルを豊かにしたいと思うようになっ た」と山脇さんはいう。参加者が他の参 加者と交流することで、「ICU生ってやっ ぱりいいよね」とか、「いいことがあった な」「面白い情報が得られた」と思っても らえるようにしていきたいそうだ。ICU生 は"ICU生"という共通言語を既に持つが、 テーマを持った各イベントを通して、さら に互いを深く知り合ってほしいとのことだ。 会の様子を聞くと、やはりディスカッショ ン好きのICU生。世代を超えて、終電間際

まで話し込んでいるそう。

卒業後も新たなICU生と知り合えるのは、 ICU好きにとって喜ばしいことだ。山脇さ んは「現役の学生がICUの資産であるのは もちろんだけれど、卒業生もそれと同じく らい大切な資産」と言っていた。また興味 深かったのが、「みんな確かに違ったけれ ど、在学中はそこまで違った人生は歩んで いなかった。けれど10年も経つとみんな 全然違うので同級生に会っても刺激になる し、上下横の再会や、新たな出会い、疎遠 になった人との再会もあり本当に楽しい」 という言葉だ。ICUは小さな大学であった が、やはり知り合えなかった人の数の方が 多いのが、大部分の人にあてはまるのでは ないだろうか。丸の内Styleは、卒業のな い永遠の小さなキャンパスなのかもしれな

今後の展開

14年秋に行った大ブレインストーミン グを今年(2015年)も開催したいそうで、 みんなでイベントのアイデアを出し合うこ とにより、みんなで作っている感じを出し たいと企画中。また、様々な視点やアイデ アを出し意見交換をすることで、みんなに 役立つものを提供したいという。「今まで 一切丸の内Styleに関わったことがない人 も参加大歓迎!」そのような姿勢が、フラ ットさを大切にする丸の内Styleなのかも しれない。詳細はICU祭のころに発表予定。 またイベントは一部の時期を除き、月例 で開催しているので、同窓会ホームページ

をチェックしていただければとのこと。



山脇真波 YAMAWAKI, Mana (50 ID06)

2006年国際関係学科卒。高校、大学時 代をICUで過ごしたハイアガリ。在学中 はストリートダンスサークル "Smooth Steppers"に所属。在学中から現役生 として同窓会に関わっていたのかと聞く と、「全然関わってませんよー」とのこと。 現在は丸の内Style代表として活躍し、 引き続きICU、そして幅広い世代の同窓 生とのつながりを大切にしている。

ICU同窓会 支部一覧

国内の支部

支部名 連絡先

北海旭 nokkaido-chapter@icuaiumni.com tohoku-chapter@icualumni.com hokuriku-chapter@icualumni.com とちぎ tochigi-chapter@icualumni.com tokai-chapter@icualumni.com kansai-chapter@icualumni.com tokushima-chapter@icualumni.com hiroshima-chapter@icualumni.com 九州 kyushu-chapter@icualumni.com 沖縄 okinawa-chapter@icualumni.com mitaka-chapter@icualumni.com 三鷹

海外の支部

支部名

ワシントンDC シカゴ UK

デンマーク

パリ 上海

タイ

ドイツ 北カリフォルニア 南カリフォルニア インドネシア

ニューヨーク

ハワイ シンガポール

ボストン

連絡先

washingtondc-chapter@icualumni.com chicago-chapter@icualumni.com uk-chapter@icualumni.com denmark-chapter@icualumni.com paris-chapter@icualumni.com shanghai-chapter@icualumni.com thailand-chapter@icualumni.com germany-chapter@icualumni.com northerncalifornia-chapter@icualumni.com southerncalifornia-chapter@icualumni.com indonesia-chapter@icualumni.com taiwan-chapter@icualumni.com フィリピン (現在休止中) philippines - chapter@icualumni.com ny-chapter@icualumni.com hawaii-chapter@icualumni.com

内容を転送させていただきます。 恐れ入りますが、ICU同窓会事務局までお問い合わせください。

aaoffice@icualumni.com boston-chapter@icualumni.com

地域以外の支部

支部名

野球部OBOG会支部 ラグビー部OBOG会支部 Shining60's 支部 ICU医療関係者の会支部 LA会支部 第二男子寮OB会支部 サッカー部支部 美術部OB会支部 J.P. Morgan支部 丸の内Style支部 ICU女子会支部 ICU教育セミナー支部 The Weekly Giants 支部

国際基督教大学理学倶楽部支部 scienceclub-chapter@icualumni.com baseball-chapter@icualumni.com rugby-chapter@icualumni.com shining60s-chapter@icualumni.com iryokankei-chapter@icualumni.com los-angeles-kai-chapter@icualumni.com 2md-chapter@icualumni.com soccer-chapter@icualumni.com bijutsubu-chapter@icualumni.com j.p.morgan-chapter@icualumni.com marunouchistyle-chapter@icualumni.com icujoshikai-chapter@icualumni.com kyouiku-seminar-chapter@icualumni.com wg-chapter@icualumni.com

各支部に関して、ご不明な点はICU同窓会事務局 (aaoffice@icualumni.com) までお問い合わせください。

支部ってなに? どうつくる?

同窓会支部は、なによりも同窓会員の親睦をより深めることがその存在意義。

地域(世界各地に海外支部のネットワークが充実しているのはICU同窓会の特徴の一つ)や部活動、サークルなどをよりどころにするものが多かったが、

「東京の中心でICU生が集まれる場所を」という願いから生まれた『丸の内Style支部』(8ページ参照)や、

SNSのFacebook上で結成された女子限定の『ICU女子会支部』など、さまざまな支部が新たに生まれ、多様性を増している。

このほかにも、「第二男子寮支部」は700人以上のメンバーを誇り、閉寮をめぐる動きをきっかけに支部として組織化された。

ICU同窓会では初めての企業内支部として、『J.P.Morgan支部』も誕生している。

文:池田伸壹 ICU同窓会組織部担当副会長(本誌)



同窓会の支部長会議。どのように支部を盛り上げるかなどの意見交換も



新しくできた「教育セミナー支部」の支部長三橋洋二さん(21 ID77)に同窓会の旗を渡



筆者がニューヨーク駐在中に参加した2005年の同窓会NY支部のクリスマスパーティ。 サンタ役は1期生の北代淳二さん

活動は千差万別

支部によって、活動の仕方も千差万別だ。 きめ細かい活動を続けている代表は『ラグ ビー部OBOG会支部』(11ページ参照)。 約500人が在籍し、毎年、総会を開いて、 会計報告、活動報告なども行いつつ、現役 選手をサポートしている。一方、1980年 代に消滅してしまった山岳部を母体として いる『山楽会支部』は全員60歳以上だが、 やはりきめ細かく活動を続けている。春と 秋には全体でハイキング。毎月、1、2泊 をして2000メートル級の山を登るグルー プ、日帰りで近郊の山々を楽しむグループ、 河川沿いの散策や歴史探訪のウォーキング という3グループが活動し、『万年雪』とい う機関誌も毎年発行している(山岳部とは 関係ないメンバーを歓迎しているそうだ)。

しかし、どの支部もこのようにしっかりとした運営をしているわけではなく、1年に1度、連絡のつく人が集まって食事をするという支部が多い。『東北支部』は2011年の震災後に仙台に100人を集めたICU同窓会の全体会合「リユニオン@東北」の開催以降、約120人の支部メンバー全体を対象とした会合は開いていない。しかし、下館和巳支部長が主宰するシェイクスピア・カンパニーが震被災地を回って公演をするたび、必ず同窓生が集まるという。これも立派な支部活動といえるだろう。

支部に期待されること

支部には同窓会旗が手渡され、必要と認 められた場合には、支部活動活性化のため の通信費や印刷費等の一部を補助する支援 金を支給。また、地域支部には、該当地域 在住の同窓生の宛名ラベルを提供するとい った活動支援が行われる。楽しむことが最 大の目的である支部活動だが、同窓会の情 報を共有し、発展に貢献することも期待さ れている。このため、支部長は原則として 同窓会評議員に就任し、組織部に所属する ことになっている。東京で開かれる評議員 会・支部長会議・組織部会などに支部長が 出席する際の交通費についても、国内支部 には、最寄りの新幹線の駅または空港から 羽田空港/東京駅までの往復の実費(片道 3,000円以上の場合のみ)、海外支部には 一律1万円が補助される。

そんな支部設立の基準は単純明快。① メンバーに同窓生が10名以上いる、②集 会の実績がある、③支部長が決まってい る、の3点。これらの基準を満たしていれ ば、「支部設立申請書」に必要事項を記入 し、電子メールで同窓会事務局に提出。理 事会が承認すれば、正式に支部が設立され る。地域や学生時代の活動、現在の趣味や 職業などでつながりのある支部に連絡を取 るもよし、10人以上の仲間を集めて、新 たな支部をつくることも考えてみてはいか がだろうか。

支部を立ち上げたいと思ったら……

0

10名以上の構成員 (ICU同窓生) を集めよう!

2

集会を開いて実績をつくろう!

支部長を決めよう!

→ 「支部設立申請書」を同窓会に提出!

	支部部	 立申請書			
同窓会支部の設立を	と以下の通り申請いたします。				
支部名 The Weekly GIANTS支部					
設立の趣旨	1979年12月、「国際基督教大学(別名 三鷹砂漠)に、愛と希望の花を咲かせ				
政立の経日	る」として創刊された週刊新聞、The Weekly GIANTS(WG・ういじゃん)。このIC				
	Uの独立メディアに関わっていた卒業生を中心として活動する。				
	創刊以来の歴代Weekly GIANTS Co.「社員」のみならず、創刊以来お世話に				
	なってきた読者、広告主といったコミュニティーとの旧交を温め、世代を超えた交				
	流、そしてWGを支えてくれた感謝を伝える活動もしていきたい。そのため、広く				
	会員を募る				
	同窓会の準会員でもある現役の学生、現役のWeekly GIANTS社員も参加可能とし、現役の活動支援も行う。				
	会員の興味や関心にもとづき、同窓会報やウェブサイトの記事の取材、執筆、				
		編集などを通じて、同窓会活動に貢献することも期待される。			
活動実績	W. W. C.	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,			
7113077432					
	2015年3月7日にはアルムナイハウスのラウンジで創刊39周年を記念するイベ				
	ントを開き、現役の学生と卒業生あわせて59人が集まった。				
	随時、さまざまな集会を重ねるほか、ソーシャルネットワークを活用(Faceboの非公開グループ、Weekly GIANTS Co.には94人が登録)し、現役の活動				
	の非公開グループ、Weekly GIANTS CO.には94人が登録)し、現役の活動を 応援し、会員間の親睦を深めている。				
	ル及び、五異同りが発生とかり、	. v			
支部長	中嶋 隆	1980 年卒	(24期)		
支部メンバー	88 名				
支部長メールアドレ	Z udoppo@*****.ne.jp				

楕円球が紡ぐ生涯の絆―ラグビー部支部

OBG500人超:現役学生を全力サポート 取材・文:石井雅仁(本誌)

同窓会支部の中でも「抜群の結束力、組 織力がある」と評判の高いラグビー部 OBOG会。その一端にふれようと6月6日、

OB・現役戦が行われたICUフィールドを 訪ねた。待望のフィールド人工芝化から 丸2年。試合は30歳前後のメンバーが主 力のOBチームが、38-12と貫禄を見せつ けて現役チームを撃破。その後は年1回の

OBOG会総会も行われた。

ラグビー部の創設はICU献学から6年後 の1959年春のこと。6期生、7期生のラグ ビー好きが集まった同好会として始まり、 最初は学内で「山岳部」と試合をしたと いう。それから55年の歳月が流れ、今や OBOGの数は500人の大台を超えた。卒業 後もラグビー関係で活躍するOBが何人も いる。ウェールズに渡り、新聞記者から中 学・高校のラグビー指導者に転身、2019 年ラグビーW杯日本大会招致を成功に導い た、同大会組織委事務局長の徳増浩司さん (18) もその一人だ。

卒業部員約530人のうち、半数以上の 268人の現住所・連絡先をOBOG会事務局 が把握しており、これが「強い組織力」の 原点となっている。集まった会費、また FOI (Friends of ICU) を通じラグビー部支 援を目的とした寄付を募り、▽現役学生の 合宿費用補助▽新入部員リクルート活動 への財政支援――など、さまざまな形で OBOGが現役選手を支援する。フィール ドの人工芝化でも、中内俊一郎さん(16) が推進協議会の会長となってリーダーシッ プを発揮。同窓生の目標募金額4000万円

のうち、実に5割近くの約1800万円がラ グビー部OBOGからのものだった。

もちろんOBOG活動が、常に順風満帆 だったわけではない。世代ごとに活発期、 停滞期と波はあったそうだが、同窓会前 ラグビー部支部長の矢崎智章さん(23 ID79) は「節目の時や大事な時期に、自 然と盛り立て役の人材が出てきて伝統が受 け継がれていった」と振り返る。

近年では2003年、現役学生らが「地区 対抗リーグ一部昇格に伴いユニホームを新 調したい」と相談を持ちかけたのが一つの きっかけだったという。OBOGも「年に 一度はきちんと集まろう」という呼びかけ から集う機会も増え、2007年には2年後 の創立50周年に向けた記念事業の取り組 みが動き始めた。

具体的な協力要請、組織力強化には、メ ンバー一人ひとりへの直接的な呼びかけ・ 働きかけが欠かせないが、「長らく事務局 を務めていただいた渡辺芙時雄さん(14) が名簿作成に尽力され、これに本当に助け られた」(矢崎さん)という。

50周年事業では、A4判144ページ(一 部カラー) にこれまでの戦績や数々の写真、 部員の手記、座談会などを盛り込んだ、部 史の集大成となる記念誌「ホームグラウン ド」を刊行。2008年には初の海外遠征と して、米グアムの10人制大会に参戦。現 役・OBプレーヤー 18人とサポーターの総 勢30人が参加した。

海外遠征は2010年に再びグアムへ、 2012年はタイへ、2014年にはシンガポー ICUフィールドに集まったOBOGらと現役部員





ルへと、2年に一度の恒例行事に。2019 年のラグビーW杯の日本開催を前に、 OBOG会が外国チームを日本に招いて国 際交流を図る構想もあるという。

シニアと中堅・若手OBOGが絶妙なバ ランスで協力し、現役学生も巻き込んで活 動するラグビー部の同窓生。OBOG会事務 局長の山本海斗さん(54 ID10)は「引 き続きメンバー連絡網の充実に努め、アク ティブな会にしていきたい」と話している。



OBOG会HPが新登場!

ラグビー部OBOG会は、8月に新たな HPを立ち上げた。活動報告や写真が公 開されているほか、OBOGメンバーの メーリングリスト登録などができる。

URLは http://icurfc-obg.com/

「ロシアより愛を込めて

―モスクワ支部設立へ始動

取材・文:石井雅仁(本誌)

ロシア・東欧地域では初めてとなる同窓 会「モスクワ支部」の発足に向けて、7月 5日、5人が市内のレストランに集い"始 動記念決起パーティー"を行った。音頭 をとったのは、ID90の末次崇さん(JCB インターナショナル〈ユーラシア〉代表)。 「ロシアの他都市やCIS諸国にも呼びかけ て輪を広げたい。懇親の機会、情報交換の ネットワークづくりのほか、帯同家族も含 めて楽しめるイベントもこれから考えてい きたい」としている。

末次さんは2013年10月にJCBのロシア 法人立ち上げの辞令を受け、翌2月にモス クワに赴任。旧ソ連時代、ペレストロイカ のころの大学3年のときに2週間かけてシ ベリアからレニングラードまで旅して以来 この国に関わる仕事をしたかったという。 これが2度目の海外赴任という末次さんだ が、前回のバンコク駐在時には「まだ30 歳そこそこで、同窓会活動に参加するとい

うなど思いつきもしなかった」という。だ が今回の赴任後、在留邦人が1700人ほど というモスクワでも他の大学の同窓会支部 がいくつもあることを知る。おりしも、事 業拡大のために急きょ増員をすることに なったが、これが15期下のICU卒業生で ある笠原尚人さん (49 ID05)。また笠原 さんのメロディ・ユニオンの先輩である NECの佐藤武弘さん(47 ID03)も末次 さんたちと前後して赴任。「今回は自分が 動いて、同窓生のネットワークづくりをし てみようか。ことによると結構いるかも」 と思い、行動を起こすことにした。

現地在留邦人の貴重な情報源となってい る月刊コミュニティ誌「モスクワナビ」に て呼びかけたところ、みずほ銀行の大舘篤 さん (47 ID03)、三井住友銀行の呉宰京 さん(52 ID08) から連絡をもらった。2 人とも口をそろえて「ICUの卒業生は自分 1人だけだと思っていた と話してくれた



という。元第一男子寮寮長で、在露歴の長 い大舘さんは「駐在員の奥様たちの中にも 卒業生は結構いるのでは。警戒されないよ う (笑)、明るく楽しい同窓会活動をアピ ールして輪を広げられたら」とのこと。

末次さんの仕事はロシアの銀行と提携 し、JCBカードの取扱店の拡大や、銀行の 顧客である地元のロシア人にJCBカードの 発行を推進すること。ロシア人の一人当た りカード保有率は日本とほぼ変わらないが、 「銀行口座からお金を引き出すことにしか 使っていない方も多く、一方で海外旅行時 の利用単価も欧州諸国で随一と期待の市 場」なのだという。

「小学生の時の私のヒーローは人類最初 の宇宙飛行士ガガーリン。かなり年期の入 ったロシア好きだと思う」という末次さん。 「中央アジアやコーカサスの料理など、い ろいろ目先の変わったものが食べられるの が楽しい」とモスクワ暮らしを満喫してい

モスクワ支部設立に関する問い合わせは、 the.suesan@gmail.com \land 。



「明日の大学」めざす桜祭り

総会、DAY賞表彰式、9期生卒業50周年記念式典

文:山岡清二(本誌) 写真:宮森洸(本誌)

2015年度ICU同窓会の「桜祭り」は

3月28日(土)午前10時半、桜はまだ3分咲きながら紺碧の空の下、

大学礼拝堂に卒業生168人を集めて盛大に開会した。

「桜 祭 り」 の 内 容 は 総 会、DAY (Distinguished Alumni of the Year)賞表彰式、9期生卒業50周年記念式典の3本立て。さらに正午近く閉会の後、場所を大学食堂に移して懇親会が開かれた。

オープニングは恒例のメサイヤコーラス。 大学オルガニスト・菅哲也氏の伴奏に合わせて、ICU OGC合唱団・ICUメサイヤ関係者・卒業生有志・在校生有志が「ハレルヤ」の声を場内に響かせた。司会を務める元テレビ朝日アナウンサー・野崎由美子氏(G1988)が開会を宣言し、国際基督教大学教会の北中晶子牧師(46 ID02)が開会祈祷を捧げた。 総会では、木越純会長(27 ID83)が2014年度の活動報告ならびに2015年度の活動計画を提示。同窓会の理事、評議員を中心に9つの部会(大学、組織、広報、財務、募金、事業、総務、学生、IT)が各分野を担当して、活動が活性化していると報告した。木越氏は財政的支援、優れた受験生の確保、広報活動など母校への貢献を同窓会活動の主要目的と位置付け、「明日の大学」のイメージをほうふつとさせた。続いて佐藤久恵財務部担当副会長(29 ID85)が前年度決算報告および新年度予算案を発表、満場一致で承認された。

DAY賞表彰式は冒頭の挨拶で選考委員

長の宮武久佳氏(G1983) が、受賞者の 選考に今回は「メディア露出度」の高さを 重視しなかったと説明。続いて5人の受賞 者がそれぞれ個性豊かなスピーチの中で、 ICU時代とそれ以後の人生を振り返り、受 賞の感想を語った。受賞者には、表彰盾と 記念品の写真立てが贈呈された。

次に、卒業50周年記念式典が執り行われた。木越同窓会会長は「平和の誓いの下に建学されながら、未知数の多い当時のICUにあえて参集された9期生の先輩方に敬意を表する」と称賛。9期生代表の高橋一生氏は「我々は50年前よりも個性にあふれ、それぞれの形で美しくなっていると思

う」とこれに応じた。この式典に集まった 9期55人には、記念品の写真立てが贈られ た。

この後、北城恪太郎・大学理事長は祝辞の中で、私学の存立は卒業生の肩にかかっていると強調。日比谷潤子学長も、同窓会とのさらなる協力関係強化を訴えた。最後に讃美歌斉唱、祈祷を経て閉会となった。

懇親会は例年どおり大学食堂で開催。旧知を懐かしむ声が乱れ飛ぶなか、今回は「同窓会グッズ」の売れ行きが好調だった。次回の桜祭りは、2016年3月26日(土)10時半から予定されている。



当日の司会を務めてくださった野崎由美子さん



祝辞を述べる北城恪太郎理事長



卒業 50 周年を迎えた 9 期代表の高橋一生さん



55 人も集まった9期生の皆さん

DAY賞受賞者に、 同窓生に向けての コメントをいただいた。

文:山岡清二、小林智世(本誌) 写真:樺島栄一郎(本誌)



安間 総介

YASUMA, Sosuke (5)

久しぶりに見る ICUは「ガーデンスクール」。これほど見事なキャンパスは世界でも珍しい。自分ではNSの落ちこぼれと思っていた私にDAY賞という幸運が巡ってきた理由は、多分次の3つだろう。①ストーリーを論理的に構成する能力(物理を専攻したおかげ)、②英語の科学論文を斜め読みしてもある程度分かる能力(卒論のおかげ)、③英語でけんか(議論)できる能力(寮の4人部屋で香港人、米国人、日本人と暮らし、口論に勝つコツを覚えたおかげ)。職場のNHKでこの3つを、私なみに駆使できる競争相手はいなかった。幸運を改めて感謝したい。

1961年自然科学科卒

卒業後、NHKに入局し、優れたドキュメンタリー番組を数多く制作。世界で最も歴史が古く、権威ある「イタリア賞」を2度受賞したほか、「NHKの賞男」と呼ばれるほど世界の映像賞を数々受賞した。さらに、ハイビジョン映像のソフトの質の向上に努めつつ、人材育成をはじめ国際共同制作の促進など、その国際的な普及に貢献した。



袖井 孝子

SODEI, Takako (5)

ICUで学んでよかったのは、既存の制度や慣習にとらわれない思考を身に付けられ、女性差別がなかったおかげで、研究者の道を選択できたこと。卒業後日本の職場で差別を受けても、がむしゃらに突進できた。それにしても英語が苦手だった私にとり、DAY賞をいただける喜びは格別だ。2011年の桜祭りが震災で流れた5期生の私は、その寂しさを半分返してもらった。ICU教育の価値を証明する実績の1つは、国際的に重要な役割を担う女性が多いことだ。在学生には、物おじせず自分の考えを論理的に表現する習慣を身に付けてほしい。

1961年社会科学科卒

早くから高齢化社会の趨勢と問題点に注目し、軽視されがちであった高齢者の立場の強化に尽力した。数多くの政府審議会の座長や委員を務め、政策にも影響を与えた。お茶の水大学21世紀COEプログラム「誕生から死までの人間発達科学」の中のQuality of Death and Dying 研究会を主宰し、「尊厳ある晩年と終末期」を提唱した。



大塚 信一

OOTSUKA, Nobukazu (6)

今回のDAY賞は、小学生のころこども銀行の総裁に選ばれて以来の栄誉だ。人から褒められることのなかった者には、うれしさの前に戸惑いが来る。久しぶりのICUは樹木と建物が増えていて、見事な発展ぶりを感じる。私は卒業と同時に出版社に入り、編集者・経営者として40年を過ごしたが、ICUの幅広いリベラルアーツ教育が極めて有用だったことを、誇りをもって証言できる。どんなテーマにも対応できたほか、国際的な視野を定年後の現在まで持ち続けることができた。母校のさらなる発展を祈ってやまない。

1963年社会科学科卒

元岩波書店社長。わが国の出版文化の発展に多大な貢献をすると ともに、編集者・出版人として東アジアとの文化交流の礎を築い た。さらに、名プロデューサーとして、アカデミズムはもとより、 文学・芸術をはじめ、現代日本の文化全般に刺激を与え続けた。



安江 明夫

YASUE, Akio (13)

司書として活躍のICU卒業生が少なくありません。ただ、仕事が地味なせいかあまり目立たない。そんな司書に、今回、DAY賞審査委員会の方々が目を向けて下さった。そのことを大変、有り難く存じます。司書は豊富な知識と教養を必要とする創造的な仕事です。とてもやりがいのあるプロフェッション。そのことを、今後、若い方々に伝えていきたい。DAY賞受賞を機にそう考えております。私は退職後、アジア諸国で資料保存の支援などをしています。苦労もありますがrewardingで「司書冥利」に尽きる務めです。そしてICU的、かな?

1969年社会科学科卒

日本における資料保存の先駆者として、図書館・アーカイブズ界でそのマネジメント概念の導入と普及に寄与した。また、アジア諸国の資料保存支援にも関与・協力。東日本大震災で被災した紙資料の復旧を支援する東京文書救援隊の代表者を務めた。



安井 清子

YASUI, Kiyoko (28 ID84)

久しぶりにICUを訪れ、私はこの場所が 大好きで毎日通っていたのだったと、学生 の時の気持ちを思い出しました。在学中に ワンダーフォーゲル部はじめ、出会った多 くの人たちが、私のラオスでの活動にずっ と関心を持ち応援し続けてくれ、大きな力 となっています。ラオスでの子どものため の図書館の運営、そしてモン族の民話の録 音資料を残す活動は、まだ発展途上です。 子どもたちが本との出会いを通じて新しい 世界を知り、文字を持たないモン族の文化 が継承されるよう、いただいたDAY賞を 心の支えに、今後も努力してゆこうと心に 誓っています。

1984年教育学科卒

「ラオス山の子ども文庫基金」を設立し、難民キャンプで出会ったラオスの山岳少数民族であるモン族の子どもたちのための図書館を設立・運営。また、文字を持たないモン族の民話を書き起こして継承する活動を続けている。ラオス・モン族に関する著書が多数ある。

会報編集の今昔

文:山岡清二(本誌)

本号でいくつかの記事を担当した私は、 1970年代初めから90年代半ばまで同窓 会執行部に籍を置き、主として同窓会報 の編集に当たっていた。約20年の空白 を経て昨年、評議員を仰せつかり広報部 会に属して Alumni News の編集を手 伝っている。

何よりの驚きは、新聞作りがアナログからデジタルへ進化したこと。パソコンやデジタルカメラを駆使して、美しい紙面をいとも簡単に制作していく若い編集部員たちには、ただただ感心するばかり。質の変化に加えてマンパワーの拡大にも目を奪われる。

かつての執行部は、会長・事務局長を 含めても10名に届かない人員が手弁当 ですべてを切り盛りしたものだが、今は 理事・評議員ら数十人がさまざまなタレ ントを持ち寄り、実働部隊となって回転 している。戦後生まれの少数精鋭主義リ ベラルアーツ大学の同窓会も、歳月を重 ねてようやくサイズを「成熟」させたと いえるのだろう。桜祭りで私たちは案外、 University of Tomorrowの定礎式に列 席していたのかも……。

突撃! 気になるあの"メジャー"

第11回 環境研究 布柴達男教授

資源を活用しなければ回らない社会の中で地球環境を守るにはどうすべきか―この一筋縄ではいかない問いに向き合う上では、 ICUの掲げるリベラルアーツの視点が、まさに求められているのではないでしょうか。

メジャー制導入と同時にICUに着任された、布柴達男教授にお話を伺ってきました。

文・写真: 小林智世(本誌)

環境研究のゴールは 理解でなく解決

環境研究メジャーの使命は、地球環境に 関する諸問題を自然・人間・社会といった 多角的な視点で捉え、問題の解決に向けて アクションを起こせる人間を育成すること です。

環境問題の解決は、自然を保全すること と人間の社会活動・経済活動のベストなバ ランスを探ることによって初めて実現しま す。自然を守ることばかりを主張するので はなく、人々のライフスタイルやビジネス に対する理解があって初めて、問題解決に 向けた実現可能な提案ができるようにな るのです。リベラルアーツを掲げるICUは、 環境という分野横断的なテーマを学ぶ上で 最適な空間と言えるでしょう。

授業のプレゼンで学生が 提案したプランの実現を、 日比谷学長が応援!

ICUの「環境研究」のカテゴリーに入っ ている授業は、生物学・化学・物理といっ た自然科学系の科目から、経済学・経営 学・現代史といった社会科学系のもの、さ らには環境毒性学、環境保全、環境アセス メント実習など環境問題の現場を意識した 科目に至るまで、極めて多岐に亘っていま す。環境研究メジャーでは、このカテゴリ 一の授業をどのようなバランスで履修する のかは、学生の判断に任されています。そ のため、学生には「自分なりの軸、アプロ ーチの切り口を持ってほしい」とアドバイ スしています。ただ面白そうな授業をラン ダムに履修すると、学んだことが体系的に 繋がっていかなくなることもあるので、自 分はどういった観点から環境を研究するの か、どこかで明確にする必要があるんです。

私が担当している [GE(一般教育科目): 環境研究」の授業では、学生に環境という ものの切り口の多さを実感してもらえるよ う、様々な分野の教員にご協力を頂き、講 義してもらうというスタイルをとっていま す。学内からは、気候変動やエネルギー技 術に詳しい教員はもちろん、キリスト教や 臨床心理学を研究されている教員も授業に お招きし、各分野における環境観を語って もらっています。学外からも、環境問題を 取材した新聞記者、ICUキャンパスの環境 アセスメントを実施されている環境の実務



家など、様々な方に来ていただき、自分自 身の切り口を考えるヒントにしてもらって います。加えて、グループプロジェクト として、学生を6~7人のグループに分け、 興味ある環境問題を取り上げ、その問題の 現状を把握し、解決策をディスカッション し、さらにはICUでできるアクションを大 学への提言としてまとめるという課題も用 意しています。調査内容と提言は、学食の 一画にてポスターセッションの形式で発表 します。ポスターセッションには履修する 学生ばかりでなく、教員や職員、学長や理 事、事務局長にも来てもらいます。

この試みのすごい点は、場合によって は提言が実行に移されること。以前、「食 堂のテイクアウトの使い捨て容器をリサ イクルに」というプランを聞いた日比谷 潤子学長(当時は学務副学長) がアクショ ンを応援してくださり、受講学生有志(現 SUSTENAという学生グループ)が何度 も企画書を練り直し、関係部署に交渉を繰 り返し、ついには実現にこぎ着けたのです。 まさに、行動を起こせる人間を育成すると いうメジャーの使命が果たされたと言える でしょう。

学びを行動に繋げる学生たち

ICUに来るまでの私はただ研究に没頭し ていました。しかし50歳に近づき、自分

布柴 達男

NUNOSHIBA, Tatsuo

1990年、医学博士(京都大学)取得。1991-1994年、ハーバード大学大学院公衆衛生学 研究科に博士研究員として在籍。1994年、 東北大学大学院理学研究科に助手、2001年 には同大学院の生命科学研究科にて助教授/ 准教授となる。2009年、国際基督教大学教 養学部アーツ・サイエンス学科に教授として 着任。研究生活の傍ら、2006-2012年まで内 閣府食品安全委員会農薬専門調査会幹事およ び専門委員を歴任。学生支援にも目をむけ、 2013年には日本学生相談学会より学生支援 士の認定資格第1号を受ける。2014年より 学生部長を兼任。

の人生を振り返り、そして定年までの15 年間をどう過ごすかを考えたとき、大学教 員として、もっと教育に、人財育成に関わ りたいと思うようになりました。そんな時、 問題の本質に目を向け、それにアプローチ できる人財育成を目指す、リベラルアーツ 教育を実践するICUに出会いました。ICU の学生は好奇心が強く新たな興味を開拓す る力をもっているので、授業でも沢山の反 応が返ってきますし、アクションを起こそ うという意欲も感じるので、非常にやりが いがあります。

学食のテイクアウト容器のリサイクル 以外にも、環境意識を高めるイベント 「E-weeks」の開催などもこの授業から派 生したものです。このメジャーが提供して いる学びが、環境リテラシーの高い人財の 輩出を後押しできるよう、これからも工夫 を続けてゆきたいと思っています。

学生のポスターセッションを見学

2015年春の「環境研究」の履修生によるポスタ ーセッションが、6月12日・15日の2日間、大学食 堂で行われました(筆者は12日の回を取材)。食堂 の一角にポスターを貼る空間が設けられ、9グルー プ分のブースが作られていました(写真参照)。開 始時間の11時半になると、学生たちはポスターの 前で研究内容を発表したり、評価シートを手に他の グループの発表を聞いたりしていました。来場者の 中には数人の教員の姿も。電力消費の抑制プランを 発表した学生と、それを聞いていた物理学の岡野健 教授との間で白熱した議論が交わされる場面もあり、 教室の外で様々な意見に触れることで提案力が磨か れてゆくのだなと感じました。15日には日比谷学 長や事務局長なども見学に訪れる予定。今頃、提案 のどれかが企画書となり、学生の手で大学に提出さ れているかもしれません。

環境研究メジャーのデータ

●開講されているクラス (一部、2015年現在)

環境研究 生物学入門

戦略経営論

化学概論

開発学入門

環境経済学 日本現代史

環境倫理と宗教

環境毒性学 環境保全

環境アセスメント実習 など

担当数員(2015年度現在)

上遠 岳彦 KAMITO, Takehiko

小林 牧人 KOBAYASHI, Makito

久保 謙哉 KUBO, Kenya

ランガガー,マーク W. LANGAGER, Mark W.

峰島 知芳 MINEJIMA. Chika

宮崎 修行 MIYAZAKI, Nobuyuki

西尾降 NISHIO. Takashi 布柴 達男 NUNOSHIBA, Tatsuo

岡野 健 OKANO. Ken

尾崎 敬二 OSAKI, Keiji

山口 富子 YAMAGUCHI, Tomiko

山本 良一 YAMAMOTO, Ryoichi

74_People s.Q.Mahmood un Nabi (28 ID84)

各ジャンルで活躍の同窓生を紹介

取材・文:深町英樹(本誌)

職場の同僚として出会った、流暢な日本語を話すバングラデシュ人は、 なんとICUの先輩だった! 祖国バングラデシュにて活躍するナビさん に、入学のきっかけから今後の展望までを伺った。卒業から30年経っ た今でも母校への想いは色褪せておらず、嬉しそうに思い出を語って くれた。

ICU で培った人間関係構築力を糧に 祖国バングラデシュの発展へ貢献

バングラデシュから 初の留学生として

ナビさんが日本の大学への進学を目指したの は、当時アジアの先端を走っていた日本にて電 子工学を学ぶためであった。米国の大学からも オファーを獲得していたが、同じアジア人とし て日本への憧れを抱いており、日本文化につい ても学びたいと考え、日本の大学への進学を決 めた。ICUを知ったきっかけは、東京大学に在 籍していた親戚が師事する教授からの紹介。当 時、英語で学べる大学自体が限定されていたこ とも大きな一因であった。9月入学生向けの試 験を受験し見事合格。

当時、バングラデシュから直接申請できる奨 学金は無く、移住後に日本にて奨学金を申請す る必要があったが無事取得し、1980年9月に バングラデシュからICUへの初の留学生として 大学生活をスタートした。

入学して最初のクラスはJapanese Langu -age Program(JLP)。80年代の当時も多国籍な クラスであり、ネパール、ガーナ、台湾、香港、 フランス、ドイツ、エルサルバドル、アメリカ、 カナダ、スウェーデン、パプア・ニューギニア、 オーストリア、フィリピン他から集まった仲間 と学んだ。多様な背景を持った仲間との文化交 流を大いに楽しみ、学んだという。新入生が合 宿にて交流を深める機会であるリトリートは、 3日間に渡り御殿場にて開催され、友人を作る 大変良い機会であったという。

ナビさんはカナダハウスの寮生。驚いたこと に、当時からイニシエーションにはスコットラ ンドのキルトを「制服」として着ていたとのこ と。寮生には常識なのかも知れないが、ここま で息の長い伝統であったとは……。40数人の 寮生の内、留学生は3分の1を占め、ナビさん の他にはフィリピン、アメリカ、台湾、香港出 身者がいた。

S.Q.Mahmood un Nabi (S. Q. マフムード ウン ナビ) バングラデシュからICUへの初めての留学生 として1980年9月から85年3月まで在学、 理学科卒。卒業後は1988年まで日本に在住。 現在は、一般財団法人「アライアンス・フォ ラム財団」の現地事務所に勤務しながら、 社会問題解決を使命とするビジネス・コンサ ルティングに従事。流暢な日本語、蜜なコミ ュニケーション、きめ細かい配慮でクライア ントである日本企業からの信頼も厚い。



ナビさん(左)と筆者

先生方が親切に 面倒をみてくださった

進学目的通りナビさんは理学科にて電子工学 を専攻した。苦労したのは教育制度の違いによ る数学のキャッチアップ。違いは大きく、例え ばバングラデシュの名門ダッカ大学にて数学を 教えていた知人も、日本で学ぶ為には日本の高 校の勉強から始めていた程だったという。苦労 していた時期に、カマシマ先生をはじめNSの 先生方が親切に面倒を見てくれたことをよく覚 えている。

卒業論文では太陽光を動力とした灌漑ポンプ について研究した。将来、祖国へ貢献すること を志し、このテーマを選択した。指導教授は当 時すでにICU在籍30年を超える名物教授であ った米国人のドナルド・ワース教授。また、 NSの風間晴子教授は元々のアドバイザーで、 専攻の都合で途中からアドバイザーではなくな ったが、ナビさんにとってはICUのお母さんで あり、非常に世話になったと今でも感謝してい る。このように多くの方々に支えられて取り組 んだ卒業論文であるが、なんとナビさんは締切 日の午後6時に持ち込み、時間を過ぎていたた め、受け取ってもらえなかったという残念な経 験をしている。このため、卒業が半年延び、 1985年3月に卒業することとなった。

卒業後は1988年まで日本に在住していた。

当時の英語学習ブームに乗り、ICU在学中から 行っていた英語の講師をしたり、コンサルティ ングの仕事をしたり、はたまたバングラデシュ からの出稼ぎ労働者や旅行者の通訳業務、日本 開催のパラリンピック(1981年に日本赤十字社 主催にてAbilympicの名前で開催)の語学ボラン ティアなど、幅広い活動を行っていた。

ICUで学んだのは、 異なる相手と理解し合い、 信頼関係をつくること

タイでの日系企業勤務等を経て、祖国バング ラデシュへ戻ったのは1999年。外国を渡り歩 いてきたナビさんは祖国への貢献を自分の軸と して意識する様になった。スキルを活かして、 想いを体現すべく、2012年以降は「アライア ンス・フォーラム財団」の現地事務所へ所属し 日系企業のバングラデシュでの事業立上げ支援 コンサルティングに従事している。その中で、 太陽光パネル事業可能性調査案件にも取り組 み、かつて学んだ知見を活かす機会も得た。

筆者は、2014年に同財団の企業パートナーシ ップ部門に加わり、ナビさんと出会った。(ち なみに、2015年に同部門は独立分社し、途上国 の社会課題解決へ貢献するビジネス立ち上げ支 援を専門とするオリナス・パートナーズwww. orinuspartners.comとして事業を行っている。組 の祖国の発展に向けて協業を続けている。)

ICUでの経験の中で、何が最もナビさんに影響 を与えているかを尋ねてみた。答えは、「Human relationship development (人間関係の構築力)」。 国籍や文化が異なる相手と、理解し合い、信頼 をつくる。そのためにどういうコミュニケーシ ョンを取ることが適切か。相手の文化の背景を 理解することが重要であり、その対応のために、 ときに自分が妥協し、人間関係をつくる。いわ く「ICUの環境が自分の人間関係構築力を培った。 今の仕事のベースはICUにある」。

今後も引き続き、祖国の発展に貢献する仕事 に従事したいと考えている。それは、お金より も何よりも重要だという。ICUにて太陽光パネ ルについて学んだのもそのためで、今ようやく、 その機会が来ていると感じている。

仕事では充実しているナビさんだが、バング ラデシュでは、コミュニケーションインフラが 発達していない時代が長く、その間にICU生と のつながりが薄れてしまったのが残念。職場を 通じて、ICUの後輩である筆者と出会ったこと に大きな縁を感じていると言ってくれた。最後 に、ナビさんからのメッセージを紹介したい。 「世界中の様々な場所から集まり、日本のICU という場で過ごした仲間として、同窓生との繋 がりを広めて、深めていきたい。日本のものを 世界に発信し、またその逆に世界のものを日本 に発信し、ともに国際的な動きを作りましょう」。

織体制は変わったが、両者は引き続きナビさん

自然と遊ぶ、仲間と遊ぶ

友だち

小学生~大学生年代を中心に、多言語・多世代の人々が自然の中で活動し、国や文化の違いを こえて友情を育むプログラムです。詳細はフリーダイヤルからお問い合わせください。

【国内キャンプ】(3泊4日長野小4~大人)

●雪の学校:雪の活動と多世代・多言語交流。 ●Nature Camp: 夏山体験と多世代・多言語交流。

【海外キャンプ】(1週間前後8月開催)

●アジア青少年多言語自然キャンプ&ホームステイ 中1~大人。タイでの自然体験と 現地家庭でのホームステイ。

●アジア青年多言語合宿&ホームステイ 高1~大人。上海の研修施設での 合宿と現地家庭でのホームステイ。

言語交流研究所



Multilingual Natural Immersion どんなことばにも関かれた心を育てる



多言語を学ぶ意味 大和田康之 (国際基督教大学 1 期生)

私がこれからを担う真のリーダーシッ プについて必要だと思うのは「多言語 を話す」というスタンスです。多言語

を話すということは、「違ったことば、価値観を持っ た人を自分の中に受け入れる」ということ、「寛容」 ということです。それは自分が人間としてより豊か になることです。ヒッポではまず相手の母語を大切 にしようというスタンスで多言語を育んでいます。 そんな世界が広がっていくことに、ことばを学ぶこ との本質的な意味があるのではないでしょうか。

Ø歳からOK! 子どもも★人も楽しめる

親子で参加できる 体験会開催中!!



本紙を見て 無料体験を お申し込みの方に 多言語CDを プレゼント!

● お申し込み・お問い合わせは、下記フリーダイヤルまたはホームページから

ヒッポファミリークラブ 🔯 0120-557-761

A_News

今号は、現役学生が遭遇したネパール大震災のリポートに加えて、 新しい同窓会グッズなどのニュースが届いています。

現役学生・同窓生の関わるニュースあれこれ







ネパール大震災体験記

ネパール滞在中に、大震災を体験したICU生がいる。3年生の篠崎ロビン夏子さん(ID17)だ。 そのとき、何が起こったのか。そして今、ネパールの人々に必要なものは何か。 Alumni News に寄稿してもらった。

文・写真: 篠崎ロビン夏子 (ID17)

2015年4月25日、M7.9のネパール大地 震に遭いました。ICUを休学し、ネパール でホームステイをしながらボランティアを するために滞在していたときのことでした。

震災直後の数日間は路上、公園や市役所での避難生活でした。夜は寒く、雨も降っていました。ビニール素材の大型ポスターで作ったテントの下でやっと寝つけたかと思うと、余震とそれに続く人々の悲鳴で飛び上がることの繰り返しでした。正直、精神的にも身体的にも非常に辛い経験でした。そして今でもこのテント生活を、レイプや盗難の横行といったさらに苦しい状況の中で続けている人々はたくさんいます。

村の方にいるホストファミリーと再会できたのは震災から5日後のことでした。ホストファミリーは幼児から高校1年生まで300人ほどの児童・生徒の通う学校を経営しています。レンガ作りの教室は瓦礫と化し、至るところに大きなひび割れがありました。校長先生であるホストファミリーのお父さんはショックで顔つきまで変わって

いました。しかし再会したその晩に、お父 さんは私にこう言いました。

「まずは生徒のいる周りの村を助けよう」 家も学校も失い、これから先どうなるか 全くわからない状況でのこの言葉からは、 お父さんのもの凄い力強さと生徒たちに対 する愛情、彼らを守らなければという使命 感を感じました。

すぐさま近所の若者たちとテント、食料、薬などの緊急支援物資を調達し、近隣の村々に届けました。カトマンズ盆地内の地域でしたが、震災から約一週間後の当時、全く他の援助物資が届いていない状態でした。

毎日、瓦礫撤去から避難所の掃除まで、 様々な復興活動を現地の仲間たちと共に行 いました。

もちろんどこに行っても悲しいストーリーはありました。しかし、自分の家族、コミュニティー、国のために立ち上がり、ネパールの再建に心を燃やしている若者にたくさん出会うことができました。

厳しい環境の中でも、親切さを忘れないでいつも心優しく、たくましく生きている人たちがやっぱりネパールにいるということを実感しました。

震災から数週間たった今、教育の再開が

最重要課題の一つだと私は感じています。 ネパール全土で6000校あまりの校舎が被 害を受けています。学校の素早い再建なし には、もともと就学率の高くないネパール においてますます児童が学校に通わなくな ります。人身売買ブローカーやストリート ギャングに狙われる危険性も高まります。

震災のトラウマを抱える子どもたちは、 安心して遊び、学ぶ場所を求めています。 将来世代を担う子どもたちを育てる「学 校」が今ネパールでは必要とされているの です。

これからの復興の道は長くて厳しいもの だと思います。

しかし、人々の中には確実に希望があるということを自分の目で見てきました。そんなネパールのために、同じ大地震を経験している日本ができることはもっとあるのではないでしょうか。同じように被災した痛みを感じることができ、これからもずっと地震とつき合っていかなければならないのが日本です。防災や耐震技術などにおいて様々な面でノウハウを共有し、協力できることはたくさんあると思います。今こそ、日本はネパールに寄り添って、共に歩んでいくチャンスではないかと感じています。

現在私は、NGOアジア友好ネットワー

クと共に学校再建に向けた取り組みを行っています。アジア友好ネットワークは19年間ネパールの村々での学校建設を手がけ、今まで約70校の校舎を建ててきました。これからも現地の組織と連携し、仮設学校と本設の学校を30校ずつ被害の一番大きい地域に建設していく予定です。

アジア友好ネットワークはネパール現地 組織とも実際に共に活動をしたこともあり、 必要なところに支援を届けることのできる、 個人的に非常に信頼を置いている団体です。

子ども達が安心して学び、遊べる居場所 を作るのに是非ご協力ください。

どうか、ICUの大先輩の皆様の、温かいご支援をよろしくお願い致します。この瞬間、遥か遠い国ネパールでは、人々はそれぞれ違う苦しみと希望を持ちながら一日一日を懸命に生きようとしています。一歩ずつでも人々が自分の足で前に進むことができますように。ネパールの復興を願って。

支援金寄付振込先

近畿大阪銀行川西萩原出張所 普通預金

店番号258 口座番号 0242314 名義 アジア友好ネットワーク

NGOアジア友好ネットワーク

http://www.asiafriendship.org/index.html

新同窓会グッズ誕生! ベビースタイはいかが?

文・伊藤菜々(52 ID08) 同窓会事業部

海外大学の充実したベビーグッズと同窓生の愛用度の高さを見て、これはICUでも!と企画をスタートしました。ベビーグッズ第一弾はスタイ(よだれかけ)です。よだれの多い赤ちゃんは生後すぐに使い始めますし、離乳食が始まる生後5~6カ月頃からは必須アイテムになります。大切な方への贈り物にも使っていただけるよう、高い吸水性の"1秒タオル"で有名な国産タオルメーカー『Hotman(ホットマン)』と提携し、品質にもこだわったオリジナル

スタイを作りました。今回のデザインは、ロゴ+大学名の王道デザイン(写真左)と、
"ID: ??"とお子さんを未来のICU生に
見立てた新デザイン(写真右)の2種類です。色はブルー、ピンク、イエローの3色をご用意しています。販売開始は2015年10月、予定価格は1700円、ギフト用のラッピングも承ります。将来、スタイをつけたお子さんの写真を見ながら、ICUの思い出をご家族で話すきっかけになれば嬉しいです。

また、こちらは大人用ですが、素敵な赤と黒のポロシャツも完成しました。とってもおしゃれです。ロゴの刺繍もかっこいい。予定価格2000円です。いずれも、購入希望の方は、同窓会事務局へ。ポロシャツはサイズ(ユニセックスでXS/S/M/L/XL)もお忘れなく。送料は別途かかります。



ICU同窓会WELBOXをご存知ですか?



ICU同窓会 WELBOXとは?

⇒ 同窓会会員へ提供されるお得なサービス!

- 国内外、約80,000の宿泊施設に安く泊まれる!
- レンタカー、美術館、映画館、テーマパークなども割引あり!
- ●本 CD DVD が7%お得!
- 人間ドック、資格取得、子育て支援、家事代行サービス等を特別価格で提供!
- そのほか、楽しい割引サービスが満載!
- 終身会費納入済の会員のみお使いいただけます。
- 詳しくは同窓会HP http://www.icualumni.com/ まで。
- アラムナイニュース今号同封のチラシもご覧ください。

利用者の声

- ・ここまで安くなるとは学生にとって本当に便利! (男性 10代)
- ・式場選びをしながら挙式資金の足しにすることができて助かりました。 (男性 20代)
- ・映画館さえしぼれば、どの映画でも500円引きで見られるのはお得。 (男性 20代)
- ・今回の引っ越しで初めて知り、利用させていただきました。 (女性 50代)
- ・退職してからこのような福利厚生サービスがなかったので、同窓会として WELBOXがあるのはとても心強いです。また通信教育でもやってみようかな、 と思えて、気持ちが前向きになります。(女性 30代)

WELBOX使ってみました!



国内宿泊

東急リゾート ホテルハーヴェスト那須へ行ってきました。WELBOXのサイトでWELBOX オリジナルプランや、複数の他旅行社の宿泊プランも一覧比較して選択できるところはなかなか便利です。

選んだのは平日限定2食付コテージ泊プラン。 日程に限りがあったので、劇的にお得なプラン というわけではありませんが、貯まったWEL コインは旅行だけでなく、映画やグルメ、ショ ッピングのほか、家事代行サービスや人間ドッ クなどにも使えるそうです。日常から非日常ま で、この適用範囲の広さはありがたいです。

(MM: 36 ID92)



WELブックマート

WELBOXで本を買うと、7% Off。これは使わない手はありません。今回は、前々から読みたかった同窓会広報担当副会長の岡田庄生さん(47 ID03)の出版した『お客様を買う気にさせる「価値」の見つけ方』(KADOKAWA/中経出版)という本を購入してみようと思いトライしてみました。

手続きはきわめて簡単です。1404円の本は、レジで7%引かれて1305円。しかも200万タイトルの取り扱いがあるということで、探したい本、CD,DVDはすぐに手元に届きます。購入額1000円以上なら送料無料です。とにかく早い、安い、便利。ICU同窓生の特権です。(TT:26 ID82)

営業推進部:清水・菅原・土屋

≪ICU 同窓会の皆様へ≫ 三井住友トラスト VISA ゴールドカード年会費を大幅割引いたします!

VISA ゴールドカード

三井住友トラスト・カート SUMITOMO MITSUI TRUST CARI

通常税抜10,000円+税

税抜2.500円+税

VISA

ロードサービス VISA ゴールドカート

VISA GOLD

通常税抜11,000円+税

税抜3.000円+税

▶カードご利用金額の一定割合を同窓会へ還元いたします。

★入会キャンペーン実施中! 平成28年1月末迄にご入会いただいた方全員に VJAギフトカード1,000円分プレゼント!

お申込書をご請求いただいた方にも、もれなくボールペン(2色セット)をプレゼント!

※ロードサービスVISAゴールドカードは、別途ETC年会費税抜500円+税(初年度無料)がかかります。なお、1年間に1回以上ETC利用のご請求があれば次年度は無料です。

※ご家族会員年会費は税抜 1,000 円+税です。
※ゴールドサービスセレクト(情報誌「VISA」郵送サービスまたは個人賠償責任保険の選択)は適用外となります。
※ご入会にあたっては、当社所定の審査がございます。

お申込書ご請求先(メール、FAXの方は、ICU 同窓会員であることに加え①お名前②ご住所③お電話番号をご送信願います。)

◆メールの方

Moushikomi@smtcard.jp

VISA

◆FAX の方 ◆お電話の方 FAX 03-6737-0834 20 0120-834-928(やさしくつーわ)

(取得した個人情報は VISA カード入会申込書を送付することに限定いたします。)

です!

三井住友信託銀行グループ 三井住友トラスト・カート

お電話受付時間:平日 9:00~17:00(土・日・祝日・12/30~1/3 休)

From the University

大学のページ

2015年4月18日、学長主催入学25周年・50周年記念祝賀会を開催しました。

その席において、偶然にも親子2代(母・娘)で本学を卒業された方が出席されていました。ICUを親子で卒業する。

その裏には世代を超えて受け継がれたICUの魅力がある。そんな思いから、

今号では日比谷潤子学長と沖幸子さん(13期、ID69)、青山朝子さん(38期、ID94)の鼎談をお届けします。



母はいつもICUの思い出を 熱く語っていた

日比谷:これまでは6月の創立記念礼拝の日にあわせて、入学50周年の方をお招きしていたのですが、今年から日程もあらたに、25周年の方も一緒にお呼びしたところ、親子で本学を卒業された、沖さん、青山さん親子にお会いし、ぜひ親子で受け継がれている本学への思いをお聞かせいただければと思いました。どうぞ宜しくお願い申し上げます。それでは早速ですが、お二人が本学に入学した理由からお聞かせください。

沖:私は、先輩からの勧めです。その先輩とは、 当時既にICUで学ばれていて、現在は会議通訳 の第一人者として活躍されている長井鞠子さん で、「高校時代とは違う学びを望むなら、ぜひ ICUにいらっしゃい」と、強く勧めてください ました。高校時代、英語のスピーチコンテスト に参加するなど、英語に興味はありましたが、 長井さんの一言がなければ入学はなかったと思 います。

実際に入学してみますと、何もかもが想像以上で驚きの連続でした。高校までの暗記が主の学びとは異なり、学びをもとに自分の意見をもち、判断や新しいアイディアを求められる。これがICUの学びだと思いますが、こうした教育は初めてで、図書館に籠り、課題図書を読んだり、毎週金曜日に課せられたFEP(Freshman English Program: 当時の英語教育プログラム名)のクイズの準備をしたりと、それは必死でした。

青山:私の場合は、母からICUの素晴らしさを 教えられて育ったことが一因だと思います。高 校時代1年間、アメリカに留学していまして、 将来は国連で働きたいとも思っていたところ、 「ICUには国連で働く同窓生がたくさんいるので、ICUに行くべき」と、強く母から勧められました。また、母は大学時代の友人の方たちと、卒業から年が経っても非常に密なよい関係を続けていますので、ICUの大学生活は楽しく、素晴らしいのだろうと漠然としたあこがれを抱いていました。

社会に出てわかるICUの魅力

日比谷:沖さんは、ICUに入学して衝撃を受けられたそうですが、青山さんはいかがでしたか。 青山:高校時代に海外経験がありましたので、 母のようなカルチャーショックを受けることは ありませんでしたが、社会人になり当時を思い 返しますと、大変に恵まれた環境で学んだとい うことを感じました。特にICUに入学してよかった点は3つあると思っています。

第一はリベラルアーツです。入学前は「手に職を」と考え、弁護士になろうと思っていたので、社会科学科に入学しました。そして、法律概論の授業を履修したのですが、初めの数回でどうも法律は自分には合わないと気付きました。一方で会計学が非常に面白く、自分は実学の方が好きということに気付き、在学中に公認会計士の資格を取得するまでになりました。入学時の希望と異なる分野を学ぶことができる大学に入学していなければ、こうして公認会計士になることはなかったと思います。

第二は、グローバルであることです。高校時代、アメリカに留学していたこともあって、当時、自分を国際的だと思っていました。そんな時、スペイン語を履修していたことから先生に勧められ、2年次にスペイン留学の機会を得ました。そこにはアメリカとは違う世界が広がっていて、「アメリカ=世界」ではないことを肌で感じ、もっと物事を地球規模で考えることが必要だと

気付きました。

そして、第三に、多様性を受け入れる力を養えた点です。ICUには、ノンジャパニーズもいれば、高校まで海外で過ごしていた日本人など、本当にさまざまなバックグラウンドをもつ学生が共に学んでいて、日常的に価値観の違う人と勉強したり、クラブ活動したりした経験は、とても役立っています。今勤めている会社の社長はルーマニア人、直属の上司は南アフリカ人と、国籍はさまざまです。こうした多様な価値観が入り混じった組織の中で、自分の考えを相手に伝わるよう論理的に話し、皆で一つの解を導くという経験は、今、そしてこれからも社会に必要とされているグローバル人材の基礎となる力だと思います。

日比谷:お二人のお話を伺っていて、現在の新入生との共通点が多々あると感じました。毎年、新入生に対して、「ICUをどのように知ったのか」、「なぜICUに入学したのか」ということをアンケートで尋ねているのですが、「ICUをどのように知ったのか」で圧倒的に多い回答が、「家族・親戚」に勧められたというケース。青山さんのケースですね。続くのが「高校の先生」や「先輩・友人」に勧められたというケースで、沖さんのケースです。また「なぜICUに入学したのか」という質問の回答で多いのが、「専門を入学後に選ぶことが可能」、「充実した英語教育」で、まさにお二人と一緒です。

ICUはファミリー、 そしてユートピア

青山:会社の採用活動にも携わることがあるのですが、会社としては海外に出て、苦労した経験など、大学在学中にさまざまな体験をした学生を採用したいと考えています。私の会社は今、

複数のグループ企業が統合した直後で変革の時なのですが、そのような時、全社員が同じ考えを持ち、同じ種類の人間としか仕事ができないのは望ましくなく、社員一人ひとりが様々な意見を同じテーブルに挙げて、話し合う事が大切だと考えています。ですから、学生のうちから多様な意見に触れ、自分の考えを持ち、それを表明できる人を採用したいと思っています。

日比谷:多様な価値観のもと、皆で話し合いながら解決に導くという経験に関しては、沖さんも在学中に経験されているのではないでしょうか。

沖:第4女子寮の寮生活が、まさにその経験に当てはまります。寮の運営を決める会議「寮会」では、寮生が国籍や学年に関わらず、自分の立場を崩さず、意見を本気でぶつけ合っていました。大学紛争の時期でしたから、時には涙を流しながら、皆で議論することもありました。先生から「自分も皆と一緒に、大学当局と話すよ」と言われた時には、「ICUは学問の場だけでなく、ファミリーなんだ」と実感したこともありました。だから、ICUのことを話し始めると熱くなってしまいます。

青山:ICU生たちがICUのことを皮肉って「Isolated Crazy Utopia」と呼んだりしますが、言いえて 妙だと思います。繁華街から離れた緑が豊かな 環境で、学びたい学問を学ぶ事ができ、先生方と学生の距離が本当に近くて、一人ひとりに丁寧に指導を受けられる。そして海外で学ぶ機会 も得る事ができる。これは他にはないユートピアだと思います。この環境で学ぶ事ができて、本当に幸せでした。

沖:私も、この素晴らしい環境でこんなにと思うほど、勉強させていただく機会があり、幸せでした。ぜひ、今の学生さんも、頭の柔らかい時に、多くのことをここICUで学んでいただきたいと思います。

日比谷:お二人の本学への熱いお気持ちを伺い、大変うれしく感じるとともに、その気持ちに応えなくてはならないと強く感じました。昨年採択されました文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援事業」の取組も2年目となります。今一度本学の教育理念である「国際的社会人としての教養をもって、神と人とに奉仕する有為の人材を養成すること」に立ち返り、様々な取組を推進して参ります。本日はどうもありがとうございました。

沖幸子 Sachiko Oki (写真左)

1969年、教養学部社会科学科卒業。在学中の1年3ヶ月を第4女子寮でノンジャパニーズの学生や帰国生とともに共同生活を送る。卒業後、ソニー株式会社秘書課での勤務を経て、1970年12月退社。

青山朝子 Asako Aoyama (写真中央)

1994年、教養学部社会科学科卒業。在学中に公認会計士第二次試験に合格。卒業後、監査法人トーマツへ入社。 オハイオ州立大学でMBA取得後、メリルリンチ日本証券に入社、04年日本コカ・コーラへ入社。11年に東京コカ・コーラボトリングの取締役兼CFOを経て13年コカ・コーライーストジャパン設立時に常務執行役員財務経理統括部長に就任、現在に至る。 On April 18, 2015, 25th and 50th Matriculation Anniversary Hosted by President was held.

At the celebration, a mother and daughter, both graduates of ICU as it happens, were in attendance.

Parent and child graduating from ICU: Behind this is the appeal of ICU, which was passed down a generation.

This issue delivers the talk among President Junko Hibiya, Ms. Sachiko Oki (13 ID69), and Ms. Asako Aoyama (38 ID94).

Mother always passionately talked about her memories of ICU

Hibiya: Until now, those marking the 50th anniversary of their enrollment had been invited to a celebration on the same day as the Founder's Day Chapel Hour in June. However, starting this year, a new day was set aside and those marking the 25th anniversary were also invited. At the celebration, I met the two of you, who had graduated ICU as parent and child, and I thought that it would be wonderful to hear of your passion for ICU, which has been passed down from parent to child. I am looking forward to your stories. To begin, please let me hear your reasons for enrolling in ICU.

Oki: In my case, the reason was the recommendation of an older student. That student was Mariko Nagai, who was already studying at ICU at that time and is currently working as a leading conference interpreter. She strongly recommended ICU, saying "If you want learning that is different from what you experienced in high school, then come to ICU." During high school, I was interested in English and participated in English speech contests, for example, but without Ms. Nagai's words. I believe I would not have enrolled.

After I enrolled, everything was beyond imagination, and I was continuously surprised. In contrast to learning up to and including high school, which emphasized memorization, we were asked to have our own views based on learning, to make judgments, and to provide new ideas. I believe this is what constitutes learning at ICU. Such education was a first for me, and I struggled. Holing up in the library, I read assigned books and prepared for Freshman English Program (FEP) quizzes administered every Friday.

Aoyama: In my case, I believe one of the reasons was my mother telling me about the fabulousness of ICU while I was growing up. I studied abroad in the United States for a year during high school, and when I was thinking that I wanted to work at the United Nations in the future, my mother strongly recommended ICU, saying "Since ICU has many alumnae and alumni who work at the United Nations, you should go to ICU." Also, years after graduation, my mother continues to have very close and wonderful relationships with friends from her college years, so I thought that student life at ICU must be fun and really amazing and had a vague yearning for ICU.

ICU's appeal becomes apparent after entering the workforce

Hibiya: Ms. Oki apparently received a shock after enrolling in ICU. Ms. Aoyama, how was it with you?

Aoyama: Since I had studied abroad during high school, I did not experience culture shock like what my mother experienced. However, looking back on my time at ICU after entering the workforce, I felt that I had learned in a very blessed environment. I believe there are three special reasons why I am glad I enrolled in ICU.

The first reason is liberal arts. Before enrollment, I thought I should have a trade and was thinking of becoming a lawyer, so I enrolled in the Division of Social Sciences. I took an introductory class on law, but I realized during the first few sessions that law was not a good fit for me. On the other hand. accounting was very interesting, and I realized that I liked practical subjects more. While at ICU, I even obtained a Certified Public Accountant license, Had I not enrolled in a university where it is possible to learn about fields that are different from one's intended major at the time of enrollment, I believe I would not have become a Certified Public Accountant.

The second reason is the fact that ICU is global. In part because I had studied abroad in the United States during high school, I considered myself to be international. At that time, I was taking Spanish, and upon the recommendation of a faculty, I received the opportunity to study abroad in Spain during my second year. There I found a world that was different from the United States, and I felt in my bones that the United States does not equal the world. I realized that it is necessary to think of matters on a more global level.

And the third reason is that I was able to cultivate the ability to accept diversity. At ICU, students with very diverse backgrounds, such as non-Japanese and Japanese who lived abroad up to and including high school, were learning together. The experience of learning and participating in club activities with people having different values on a daily basis has been very valuable. The head of the company where I currently work is a Rumanian, my immediate supervisor is a South African, and the head of the manufacturing and distribution department is an Australian. There are various nationalities. The experience

of speaking logically so that your thoughts are communicated to others and deriving a solution with everyone in such an organization where diverse values mingle is, I believe, a strength that serves as the foundation of global human resources, which are being needed by society, now and in the future.

Hibiya: Listening to your talks, I felt that there are many points in common with the responses of today's new students. Every year, new students are asked in a questionnaire: "How did you learn about ICU?" and "Why did you enroll in ICU?" The predominant response to "How did you learn about ICU?" is recommendation by "family and/or relatives," which is the case with Ms. Aoyama. The next most predominant response is recommendation by "high school teachers" or "older students and/or friends," which is the case with Ms. Oki. Also, common responses to the question "Why did you enroll in ICU?" are "ability to select major after enrollment" and "quality English education," which are what you two also mentioned.

ICU is family and also utopia

Aoyama: I am sometimes involved in my company's recruitment activities, and my company would like to hire students who had various experiences while enrolled in college, for example going abroad and having a rough time. Right now, my company is in a time of transformation following the merger of several group companies. During such a time, it is undesirable for all employees to have the same thoughts and to have employees who can only work with those who are the same type as themselves. I think it is important for each and every employee to put various views on the same table and talk with one another. Therefore, I would like to hire people who have come in contact with diverse views since their student days, who have their own thoughts, and who can give voice to them.

Hibiya: Didn't Ms. Oki also experience deriving solutions while talking with others of diverse viewpoints while at ICU?

Oki: Life in the Fourth Women's Dormitory precisely fits the bill. In the dormitory meetings, which make decisions regarding dorm operations, dormitory students discussed their views in earnest, regardless of nationality and grade/year, and without yielding their positions. Since it was the time of student unrest, sometimes we argued while

shedding tears. Also, when a professor said, "I will talk with the university authorizes together with all of you," I realized, "ICU is not just a place for learning, but also family." That is why I become passionate when I start talking about ICU.

Aoyama: ICU students sarcastically call ICU "Isolated Crazy Utopia," but I think this is aptly put. At ICU, it is possible to pursue studies that you want to pursue in a lush green environment removed from the bustle of town. The distance between professors and students is very close, and it is possible to receive careful guidance from each and every professor. In addition, it is possible to receive opportunities to study abroad. I believe this is a utopia not found anywhere else. I was very blessed to have been able to learn in this environment.

Oki: I too had so many opportunities for learning in this wonderful environment and was blessed. I would like current students to learn many things here at ICU while their brains are flexible.

Hibiya: Listening to your passion for ICU, I was very happy, and I also strongly felt that ICU must respond to that passion. The Ministry of Education's Top Global University Project, for which ICU was selected last year, has entered its second year. ICU will once more return to its educational philosophy, "the cultivation of internationally minded citizens who perform service to God and humankind" and pursue various measures. Thank you very much for today.

Sachiko Oki (pictured at left)

Graduated from the College of Liberal Arts' Division of Social Sciences in 1969. Lived together with non-Japanese and returnee students in the Fourth Women's Dormitory for a year and three months while enrolled. Worked in Sony Corporation's secretarial section after graduation. Retired in December 1970.

Asako Aoyama (pictured at center)

Graduated from the College of Liberal Arts' Division of Social Sciences in 1994. Passed the Certified Public Accountant exam while enrolled. Joined the auditing firm Deloitte Touche Tohmatsu after graduation. Received an MBA from the Ohio State University and afterward joined Merrill Lynch Japan Securities. Joined Coca-Cola Japan Co., Ltd. in 2004. Became Director and CFO of Tokyo Coca-Cola Bottling in 2011. Assumed the position of Senior Executive Officer, Financial Controller of Coca-Cola East Japan at the time of its establishment in 2013. Currently holds this position.

学長主催入学25周年・50周年 2015年4月18日(土)

今年で13回目となった本イベント、今年から新たに入学25周年の卒業生も一緒に迎え、13期生と38期生を合わせた総勢150名を超える国内外からの参加者がありました。

記念礼拝では、入学式と同様に、伊藤辰彦教養学部長により参加者の一人ひとりの名前が呼ばれ、日比谷潤子学長が式辞を述べました。大学食堂での懇親会では旧友との、そして期を越えた新しい交流がありました。会場の一角では、大学紛争のため卒業式がおこなわれなかった13期生のために、卒業式用のキャップとガウンが用意され、車椅子で参加した金田治子さん(13期)は、旧友に肩からガウンを掛けてもらい、最高の笑顔で写真に納まりました。また、奇しくも13期生と38期生の親子での参加もあり、二人が紹介されると会場はうれしい驚きに包まれました。

「大学のスマートな計らいで、この50年を取り戻すことが出来ました。入学時、武蔵野の木立の中で暮らしたい切なる願望から入寮を希望しながら叶いませんでしたが、ダイアログハウスで一夜お世話になり、図らずもこの夢も実現することが出来ました。」(大野宗雄さん・13期) 「13期の方々がものすごく格好よくて、自分もICUに育てられ、ICUを支えていく一員として、微力ながら社会に貢献したいとあらためて思いました。いつの間にか、自分も歴史の一ページを担ってきたのだと気づかされ、誇らしい気持ちになりました。」(大柿裕美さん・38期)

卒業生たちのこのような思いが I C U の次の一ページを作ってゆきます。

ICUの歴史は卒業生とともにあります。

25th and 50th Matriculation Anniversary Hosted by President

Saturday, April 18, 2015

The annual matriculation anniversary invitation was extended to the 25th anniversary class this year. On April 18, more than 150 alumni from class 13 and 38 including families from US and Hong Kong gathered on campus.

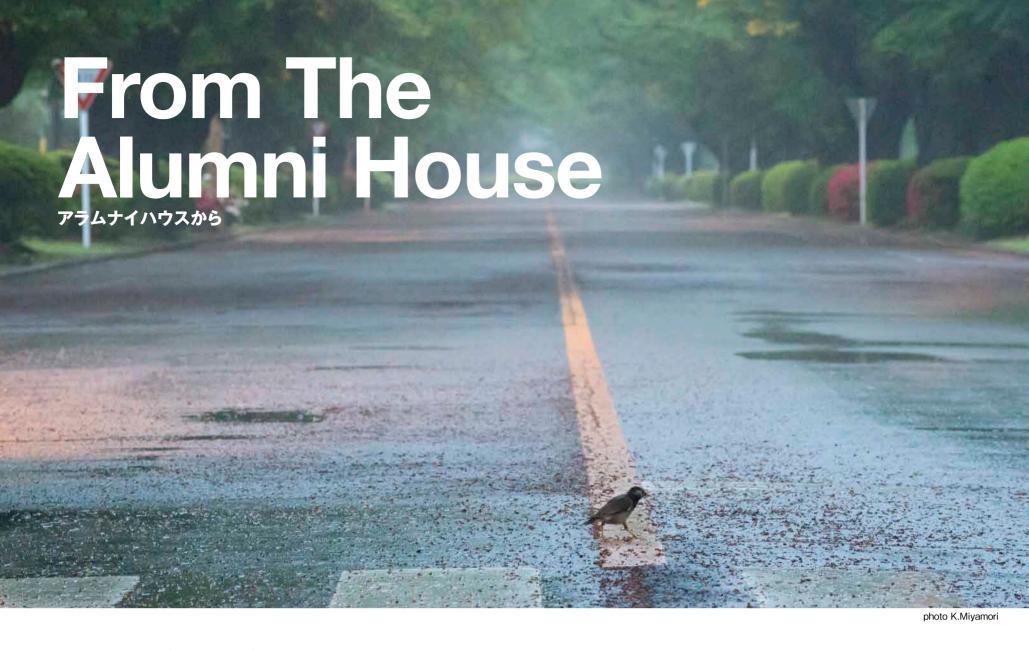
In the anniversary chapel service each participant's name was called by Dean Ito, and President Hibiya delivered a message. In the reception at the university dining hall the participants enjoyed reunion and meeting new people beyond classes. The academic caps and gowns were prepared for class 13 who could not have commencement ceremony because of university riots.

"Thanks to the university, we could reclaim lost 50 years. I also unexpectedly realized my dream of living on campus by staying in the Dialogue House." (Mr. Muneo Ono, 13) "Seeing people from class 13, sophisticated and cool, made me renew my commitment to society as a member of ICU community. I am proud to be a part of ICU's history." (Ms. Hiromi Oogaki, 38)

Such engagement of alumni leads ICU to the next page of its history. You are our history and future.







2014年度 ICU心理臨床家の集い 文: 松浦慶子 (29 ID85)

2015年3月1日、アラムナイハウスにて第 21回『ICU心理臨床家の集い』が開催されまし た。ICUの学部や大学院で学び心理臨床に携わ る卒業生が、今年も一堂に会しました。当日は、 昼食とワインを頂きながら皆すぐに打ち解けて、 年代や仕事の領域を超えて語り合う姿があちこ ちでみうけられました。また、前ICUカウンセ リングセンター長である苫米地憲昭先生(16) に、臨床家であることのご自身の体験に触れた 貴重なご講演を頂き、呼吸法の実践も行われ、 我々もしばし癒しの体験をすることができまし た。現役大学院生も含めた全員の近況報告も行 われ、同窓の絆を深め助け合うことを誓い合い、 暖かい雰囲気の中で会を終えることができまし た。日頃単独で仕事をすることも多い心理職で すが、今後も集いへの参加によりリフレッシュ して臨床現場に戻れる場になれればと思ってお ります。来年度も、多くの心理職の皆様のご参 加を心よりお待ち申し上げております。

ジェンダー研究センター(CGS)主催 同窓会「Rainbow Reunion」報告

文:加藤悠二 (50 ID06)



2015年6月6日(土)、ジェンダー研究センタ 一(CGS) 主催同窓会「Rainbow Reunion」 に35名の参加者が集いました。今回は、ID98 ~19までご参加くださり、卒業生・在学生と もに活発な交流の機会を持つことができました。 ICUは、これまでも、これからも、多様なジ ェンダー・セクシュアリティを生きる学生・教 職員が集う場所でもあります。そのことを祈念 し、本会は2016年以降も継続して開催したい と考えています。これまでCGSに関わりのな かった方もぜひ、ふるってご参加ください。

なお、本会参加費の余剰金12,360円は、 CGS創設者・田中かず子元教授が設置された 「ジェンダー・セクシュアリティ研究レインボ -賞」に寄付致しました。

デンマーク支部新年会

文:吉田実久(55 ID11)



2015年1月31日(土) にデンマーク支部の 新年会がコペンハーゲン市内で開催されまし

北欧料理のケータリングを囲んで、とても楽 しい時間を過ごすことが出来ました。

デンマークに来たことで、先輩方とゆっくり お話出来る機会が出来たことをとても嬉しく思 います。

現在ICUはユラン島にあるオーフス大学とし か協定が結ばれていませんが、コペンハーゲン をはじめとするデンマークの他の都市や北欧全 体との縁が深まることを期待します。

パリ支部2015年 初夏の懇親会報告

6月にしてはむしろ涼しい日々が続いていま したが、ようやく夏らしくなった6月28日の日 曜日、といっても今週も続いているパリには珍 しく暑い日々となったこの日曜日のお昼に、セ ーヌ河の下流にあるサン・ジェルマン島にある 瀟洒なレストランL'ILEで11人が集まって恒 例の初夏の懇親会を開きました。初めての方二 人またID09の同期の方が三人もいて15期の先 輩を交えて参加人数は少なかったのですが新旧 の世代を越えて親しく歓談できました。

この日は暑くなるという予報だったのでエア コンの効いた室内の窓側に大きな円卓を用意し ていただきました。美味しい食事(フレンチ) とワイン(ロゼ)を味わいつつ和やかに歓談し

ました。食後のコーヒーやお茶は広いテラスの 木陰に移動してのんびりとまさしく初夏のプロ ヴァンスの木陰のキャフェの雰囲気を楽しみま した。お店のご好意もあり重い腰をあげたのは なんと午後4時半!同窓の趣旨に沿った有意義 な集まりになりました。

ワシントンDC支部報告



ワシントンDCの桜まつりで恒例になった、 ICU説明会ブースは、地元のICU同窓会も手伝 って、今年も大成功でした。日本で学ぶことに 興味を持っている多くの方が、ICUに関する説 明を聞くためにブースに立ち寄ってくれました。 桜まつりの後は、同窓会ディナーで、近況を報 告しあいました。

ワシントンDC支部のフェイスブックもご覧下 さい。 https://www.facebook.com/icua.dc

台湾支部会報告

文: Michael Guo (G1989)



丁度ICU桜祭りと同日に、2015年度の台湾 支部同窓会も春の陽気が著しい3月28日(土) 11:30-13:30台湾中部の台中市内のイタリア料 理店にて行われました。

地元台中在住の高 振華さん(G1968)、盧 千 恵さん(4)とご主人、孫 景富(4)さんが勿論全員 出席。台北在住の林 欣蓓さん(36 ID92)と林

欣穎さん(38 ID94)ご姉妹、並びに兼田純子 さん(53 ID09)が連日台北のうっとしい雨天 から脱出し、陽光に恵まれた台中にやって来ま した。また台南在住の黄 英甫さん(G1973)と ご夫人もご来場になって、2年ぶり南北の卒業 生と家族が中部に集まり、出席者合計10名の 集いでした。特に、2年ぶり台湾最高齢の卒業 生の高 振華さん(88歳)の健康なお姿を仰ぐこ とが出来て、出席者全員も元気づけられました。 過去一年間の経歴と近況を交換しながら、ボリ ュームたっぷりのイタリア料理を楽しみました。 楽しい会話と美食の交流の末、想定外のボリュ ームは遠い旅の疲れを十分に癒してくれても、 食べ切れずに、つい持ち帰りにした参加者も数 少なくありませんでした。しかも、2時間の盛 り上がりの終わりに出席者全員がまた黄 英甫 さんご夫婦と欣蓓・欣穎ご姉妹がわざわざ台南 と台北からお持ち下さったそれぞれご当地の名 物をプレゼントとしてもらい、まさに情熱満載 の同窓会でした。

最後に、同窓会の旗を掲げて記念写真を撮り、 来年もまた再会するよう約束してから今年の同 窓会を円満に終了しました。

第二男子寮支部

第二男子寮一時閉寮記念パーティ開催さる!

文: 佐柳信男 (37 ID93)



2015年6月末に予定されている、建て替え のための一時閉寮を前に、ICU学食にて 第二 男子寮閉寮記念パーティを6月14日に開催しま した。家族や現役の寮生も含めて約150人が参 加、北城理事長、森本学務副学長、布柴学生部 長らの大学関係者にもご列席いただきました。 ギンギラを全員で踊り、仁義なども披露され、 熱く盛り上がりました。閉寮後も餅つき等の行 事を行う予定ですので、ぜひご参加ください。

なお、第二男子寮の伝統の一部とOB会の人脈 は新しい寮に引き継がれる予定です。第二OB は、FacebookのICU_IIMD (非公開グルー プ) に加入できます ので、ご参照ください。

第13回ICUとちぎ支部会報告 「アジア学院とICU」

文::村上民樹(22 ID78)



ICUとちぎ支部は、1期生の船津祥さん の呼びかけで発足し、ICU那須キャンパスで 食事会をしたり、禅寺で座禅をしたり、那須の 非電化工房を訪ねたり、毎年、いろいろ趣向を 凝らして支部会を開催してきました。

初代支部長の船津さんはもちろん、同じく1 期生の久世礼子さんは明治学院元院長のご主人 同伴で、ICU体育科の元教授丹羽芳雄先生も ご夫妻で、毎回参加のご常連です。

13回目となる今回は「食と命と農」をテーマ に、2月28日(土)、元 I C U 教授でアジア学 院元院長の田坂興亜先生(有害化学物質の専門 家)をゲストにお迎えし、アジア学院で開催、 15名が参集しました。

アジア学院では、青年留学生が、農薬や化学 肥料、大型機械に頼らない自立できる農業を目 指し、実習を重ねています。田坂先生はICU を退任後、アジア学院の院長として、生徒と起 居を共にして指導に当たられました。卒業生た ちとの絆は、今も太く深く広がっています。 近々、ブータン政府に招かれて農業指導に行く とのこと。声にも張りがあり、はつらつとした 先生にお会いして、70代はまだ青年期なのか なと思ってしまいました。

この田坂先生とアジア学院を結びつけたのが、 「アフリカの飢え」に気づき、ICUで「飢餓 救済委員会」を立ち上げた22期生の塚田明人 さんだというのを今回初めて知りました。塚田 さんの誘いでアジア学院のワークキャンプに参 加したのが、アジア学院との運命の出会いだっ たそうです。

もともとICUとアジア学院の縁は深く、ア ジアのノーベル賞といわれるマグサイサイ賞を 受賞した創設者高木敏弘牧師の奥様は、ICU の古屋安雄牧師の妹だそうです。また、これま でにも幾多のOB、OGが指導的立場で活躍し てきました。今も、この4月から校長に就任さ れた甍川朋子さん(33 ID 89) が中心になっ てアジア学院の運営、震災からの復興に尽力し

アジア学院は「3.11」の地震で施設に被害を 受けましたが、これは各界からの寄付により、 以前よりも立派で機能的な建物に生まれ変わり ました。原発事故による放射能汚染については、 学内に「ベクレルセンター」を設置し、作物の 安全性を測定しています。「食と命と農」に対 するアジア学院の立つ位置は、農薬、原発、遺 伝子組み換え、TPPと対極にあります。今回 も田坂先生を中心に話題は尽きず、昼に始まっ た会がお開きとなったのは午後6時を過ぎてし まいました。

なお、今回、4年間支部長を務めた黒澤常道 さん(9) から、荒川朋子さんに支部長のバト ンタッチがありました。

北カリフォルニア支部会報告

文:藤田春菜 (47 ID03)



北カリフォルニア支部では、3月22日(日)恒 例のランチ同窓会をパロアルトにて開催しまし た。中華の円卓を囲みながら右隣の同窓生を" 他己紹介"するというゲームも盛り上がり、各 分野で活躍している同窓生との交流を楽しみま した。2期生から2014年卒業生まで、広い年 代の大人30名、子ども6名が集まりました。

15期会報告

文:森谷尚(15)

7月18日土曜日の午後3時より、東京原宿の レストラン「シャルダン・ド・ルセーヌ」で第 3回のICU15期会(1971年卒業)を開催いたし ました。3年ぶりの15期会で九州、京都、名 古屋、長野等を含む日本各地から29名のメン バーが参集しました。素敵なフランス料理を楽 しみながら、会話も弾み、大いに旧交を温める ことができました。その後の2次会にも27名 が出席して、引き続きお互いの近況を交換しつ つ、盛り上がりました。次回第4回15期会は、 3年後に会員の古希を記念して、三鷹周辺で開 催予定と言うことで、午後6時半に閉会いたし ました。



photo K.Miyamori

MISSING たずね人

池田 英人(35 ID91)

深見. 淳(43 ID99)

金澤 祐一(49 ID05)

森田 雄太(52 ID08)

古川 真宏(53 ID09)

動静をご存知の方は事務局までご一報ください。

OBITUARY 訃報

奥平 康弘 元ICU教授

Geeslin, Roger H 元ICU助教授

Barksdale, John Oscar 元ICU准教授

栗山 尚一 元ICU客員教授

清水 晃 (院1967)

中原 高巳(1)

新保 満(1)

布能 雄二(1)

倉橋 暢子(旧姓犬丸 1)

別府 一郎(2)

本庄 隆(5)

池 典子(旧姓佐島 6)

山本 桂子(旧姓佐藤 7)

桑山 大典(8)

種村 靖彦(9)

大盛 万里子(旧姓渡辺 9)

木村 実(10)

水間 典昭(13)

佐藤 三智子(旧姓百﨑 23 ID79)

西川 恵(旧姓高橋 29 ID85)

FriedI 郷子 (旧姓田中 42 ID98)

大福 由信(特別会員)

心よりお悔やみ申し上げます。

前号のA-News奥泉光さんご著書の出版社名に誤 りがございました。正しくは『東京自叙伝』(集 英社)です。お詫びして訂正いたします。

事務局からのお知らせ

★ 広告募集!

本誌では広告を募集しています。フルサ イズ6万円ハーフサイズ3万円で承っ ております。ご興味のある方は、詳細を 事務局までお問合せください

★ 原稿をお寄せください!

期会、リユニオン等の案内・報告をお寄 せください。本誌およびホームページに 掲載いたします。

★住所変更について

住所・勤務先・氏名の変更の際はメール (aaoffice@icualumni.com) または同窓 会ホームページの住所変更から、ご一報 ください。地方・海外にご転勤の際には 支部をご紹介いたします。同窓会事務局 までお問合せください。携帯の方はこち らからどうぞ:



★ご協力をお願いします。

大学の宣伝=大学への支援という考え方 から、同窓生の著作、雑誌インタビュー などには、略歴欄に「国際基督教大学卒 業」とお入れいただけますよう、お願い 申し上げます。

■大学・同窓会に関する情報が

満載です。ぜひ一度ご覧ください。

同窓会ホームページ

http://www.icualumni.com/

同窓会 Facebook

https://www.facebook.com/icualumniassociation 大学ホームページ http://www.icu.ac.jp/ JICUF ホームページ http://www.jicuf.org/

■ ICU 同窓会事務局

〒 181-8585 東京都三鷹市大沢 3-10-2

TEL&FAX: 0422-33-3320

Email: aaoffice@icualumni.com

■ 同窓会広報部(ALUMNI NEWS 編集部)

Email: kohou@icualumni.com



ご提供サービスのご案内

(株)ICUサービスは、ICUの100%出資による事業子会社です。

- 真心こめて ICU教会Wedding・サポートサービス
- 大好評 小中学生向け、ジュニアキャンパスキャンプ
- NEW 小学生向け、キッズカレッジ
- 海外・国内旅行保険など、保険代理店サービス
- お得な 賃貸不動産紹介 (特別割引物件有)



株式会社ICUサービス

本部棟(Admi-Bldg)2F Mon-Fri 9:00-12:00, 13:00-17:00 TEL:0422-33-3530 Mail:info@icu-service.com

で検索

今年も10月の土日に開催 10月 24&25

CU祭はアラムナイハウスへ!

ICU祭で会いましょう! Let's Get Together at ICU Festival

昨年4月に同窓会会長に就任して以来、 1期生の大先輩から元気いっぱいの現役生まで、素晴らしいICU生にお会いする機会を得ました。今年の同窓会企画は、こうした出会いを皆さんと再現する場を目指します。

10月24日(土)の『Reconnecting with ICU』では、期や分野を越えて同窓生の輪が広がればと思っています。10月25日

(日) のトークでは、DAY受賞者安井清子さん(28 ID84) の活動の中から、リベラルアーツの意味やグローバル人材とは何かを考えるきっかけが得られればと思っています。

あとはゆっくりのんびり、アラムナイハ ウス2階のラウンジで、寛いでください。

同窓会会長 木越 純(27 ID83)

Since I became President of ICU Alumni Association, I have enjoyed wonderful encounters with ICU graduates and students. At the next ICU Festival, we would like to share such excitement with you through a couple of events.

"Reconnecting with ICU" on Saturday will be a great opportunity for all participants to enhance networking among alumnus. The Talk show by Ms. Kiyoko Yasui, DAY award holder, will give us hints to think of what means liberal arts and how we can be global.

Please come, join and relax at the Alumni House.

Jun Kigoshi, ID83,

President of ICU Alumni Association

同窓会企画イベントのご案内

同窓会が主催する企画のみどころをご紹介します。会場はいずれもアラムナイハウスです。

文: 佐光紀子(28 ID84)、山脇真波(50 ID 06)

ゆったりと交流を深めましょう

Reconnecting with ICU

10月24日(土) 14時~

同窓会による同窓生のためのイベント 『Reconnecting with ICU』を14時から開催致します。久しぶりに、緑多く、美しいキャンパスを楽しみ、同じキャンパスで学生時代を過ごした同士や先輩後輩の方々と、ゆったりと話しながら交流していただこうという企画です。

同窓会は、1期生から2015年に卒業したばかりの59期生の約25,000名が会員の、まさに人材の宝庫です。当日は、同窓生同

士や同窓会支部(ICU女子会支部、丸の内 Style支部等)のみなさんとお話し、母校 を感じるひとときをお過ごしいただければ と思います。

旧中島飛行機三鷹研究所であった本館での授業を受けていたもの同士、現在勤務地が近い、趣味が似ている等、様々な共通点を探ってみるのは如何でしょうか。思わぬ再会、新しい出会いがきっとあります。また、ICUの卒業生同士だからこそ行えるデ

ィスカッションやざっくばらんにトークを 楽しみましょう!

現在同窓会では、同窓生同士がつながる 活動や、現役生に対する活動等を行ってい ますが、当日は、そんな同窓会の活動や最 近の大学の様子もご紹介します。

The Alumni Association will host "Reconnecting with ICU" at the Alumni House lounge on 24th October, from 14:00. The event aims

to provide an opportunity for alumni to reconnect with ICU, through learning more about the current activities of the Alumni Association (such as chapter activities), the university, and also about each other. The event is open to all Alumni!

DAY 受賞者トーク『私の ICU―ラオスに図書館を作る』

The talk by DAY "My ICU – Starting a library in Laos."

10月25日(日) 14時~

今年度のDAY受賞者である安井清子さん(28 ID84)にご登壇いただき、『私のICU―ラオスに図書館を作る』というテーマでお話いただきます。

現在、ラオスで少数民族モン族の人たちの図書館運営や自立支援に走り回る安井さん。社会科学専攻から教育学に転じ、児童書に関わる仕事をと夢見た大学時代。当時就職相談室の名物担当者川上姫子さんを唖

然とさせた就職活動から、就職、わずか1年でのタイへの赴任、難民キャンプでの支援活動、ラオスへ……冒険小説のような彼女の道のり。文字を持たないモン族の子ども達との関わり。深いラオスへの想い。

遠い国の見知らぬ人の話ではなく、隣で 机を並べた女子大生の紡いだ壮大な人生の 物語。ぜひ聞きにいらしてください。 The talk by DAY award winner Ms. Kiyoko Yasui will be held on 25th October, from 14:00. Ms. Yasui has had an adventurous journey, all starting with her having had strong hopes to work with children's books as a student. After working for a year in Japan, she took off to Thailand, then to Laos. At the talk,



she will share her thoughts on "My ICU - Starting a library in Laos." (in Japanese)

今年もオープン! アラムナイカフェ 両日11時~17時まで 昨年に引き続き、表参道のジュメイラを経営する吉田繁美さん (24 ID80) による軽食サービスがあります。ICUワインも楽しんで頂けますので、お楽しみに。





STAFF

EDITOR IN CHIEF

岡田庄生 Okada, Shoo(47 ID03)

MANAGING EDITOR

栗山のぞみ Kuriyama, Nozomi (34 ID90)

EDITORS

山岡清二 Yamaoka, Seiji (6)

望月厚志 Mochizuki, Atsushi (26 ID82) 石井雅仁 Ishii, Masato (30 ID86)

池田伸壹 Ikeda, Shinichi (32 ID88)

樺島榮一郎 Kabashima, Eiichiro (37 ID93 G1997)

深町英樹 Fukamachi, Hideki (47 ID03) 長橋典子 Nagahashi, Noriko (51 ID07) 堀内佳菜 Horiuchi, Kana (51 ID07) 小林智世 Kobayashi, Tomoyo (52 ID08)

加藤菜穂 Kato, Naho (53 ID09)

PHOTOGRAPHER

宮森 洸 Miyamori, Koh (59 ID15)

ART DIRECTOR

佐野久美子 Sano, Kumiko (44 ID00)

PRINTING DIRECTOR

杉浦健一 Sugiura, Kenichi(小宮山印刷)

EXECUTIVE DIRECTOR

松島眞理 Matsushima, Mari (36 ID92)

PUBLISHER

木越 純 Kigoshi, Jun (27 ID83)

SPECIAL THANKS

大間 哲 Ooma, Tetsu (34 ID90)

黒木 健 Kuroki, Ken (ID16)

ご意見・ご感想をお気軽に

アラムナイニュースは、同窓生のみなさまの ために制作しているものです。今後の制作の参 考にしますので、ご意見・ご感想、企画や人物 の紹介等がある方は、メールにてお気軽に事務 局までお知らせください。

アラムナイニュース編集部員募集

あなたの経験をANに生かしてみませんか? 企画、取材、執筆、撮影、編集進行等を一緒に なって頂ける方を大募集中です。もちろん未経 験でも可。最初は一緒に取材などを行いながら 編集のプロから直接技術を学べますし、3年ぐ らいやれば、一通り編集の基本が身に付きます。 もちろん、現役の学生さんも大歓迎です。興味 のある方は、同窓会事務局へメールでご連絡く ださい。

aaoffice@icualumni.com

